

『ファウスト』脚注の試み (26)

渡辺 信生

Persönliche Anmerkungen zu Goethes „Faust“ (26)

Nobuo WATANABE

『ファウスト』脚注の試み (26)

渡辺 信生

- 5262+. *Trunkner* — < *trunken*. 行列の最後に *der Trunkene* が登場する。彼は自分自身だけで至福の状態なので、もはや全く仲間を必要としない。(Arens). ローマ人のカーニヴァルでは、ドイツ人のパン焼き職人が、ワインを一本持った酔っ払いとして表現されている。(Goethes *Schilderung des römischen Karnevals*). (Düntzer). *unbewußt* — *ohne klares Bewußtsein*. (Trend.). *benebelt, bei getrübttem Verstand*. (Schöne). 正気を失いゐる。(森)。
5263. *Sei* — 接続法 I. *nichts* に対する要求。要求話法の強調による倒置。= *Heute soll mich nichts ärgern!* (Arens). *jm. zuwider sein*. 今日は一切逆らわないでくれよ。(高橋)。
5264. (Ich) *fühle mich. so* — *sehr. frank* — *frei, unabhängig, ungebunden; in der gangb. Verbindung „frank und frei“*. vgl. V. 5690. (Fischer). *frank ist uns erst 17. jh. aus dem fr. franc oder it. franco zugeführt worden*. (Grimm).
5265. *Lust* — *Luft* の版もある。(Loeper).
5266. *herbei|holen. sie* — 恐らく前行の *Frische Lust und heitre Lieder* を指している。(Heffner). *Trunkner* はこの二つを自らの内に持っている。(Düntzer). しかし Trend. はこの *sie* を *die singenden Mittrinker* とする。 *doch* — 何と云って。ここは韻律による倒置。 *trochäisch*. 今日は一切逆らわないでくれよ。(高橋)
5267. *Und so* — だから。 *Trinke, trinke!* — (Ich) *trinke, trinke!* V. 5276, -83 も同じ。
5268. *Stoß(et an)* — *ihr* に対する命令法。2行下も同じ。 *herbei|holen. ihr* — 回りに立っている人人。 *Tinke* — *lautmalend wie ting*. (Grimm). 触れ合うガラスの音。(Trend.).
5269. *Du dorthinten, komm heran!* — うしろの見物席にいる見物人の一人に、俳優が即興で語りかける台詞。(Schröer). *dorthinten* は *dort hinten* の版もある。 *komm heran!* — 前半の *Du* に対する命令法。 *heran|kommen*.
5270. *so ist's getan* — ここと V. 5278 の *getan* は *vollbracht, vollendet* の意。従ってここは = *dann ist alles in Ordnung, so ist's recht*. それでよいの意。(Arens).

- es* — 曖昧な形式上の主語。この *getan* で終る 4 詩節のリフレイン風の結末は、V. 5270 と 5278 は „so ist's geschäft (= gut)“ それでよいの意味である。(Witkowski).
5271. *Schrie mein Weibchen* — Mein Weibchen schrie. 倒置は韻律による。
Weibchen — vgl. V. 5184. *doch* — 強意。
5272. *Rümpfte diesem bunten Rock* — Rümpfte die Nase über diesen Maskenrock. (Endres). この原文の *diesem* は *Haupthandschrift* の *diesen* から、ゲーテの (うっかり間違えた?) 訂正によって生じた。初版では „*diesen*“.(Huber). *rümpfen* — *zusammenziehen*; in eigenartiger Verwend. mit dem Dat. = über et. die Nase rümpfen. (Fischer). しかし Huber はこの *Rümpfte diesem* を衣服に関することとして、*zusammenfalten* とする。また以下のような解釈も提案する: „*Rümpfte (vor) diesem bunten Rock (die Nase)*.“ 和訳では: かかあ奴がおこつてどなつて、立派な上衣を皺にしをつた。(森)。派手な上衣に顔をしかめた。(佐藤)。
5273. *mich gebrüset (habe)*. *sich brüsten* — *sich in die brust werfen*, *sich spreizen*. 威張る, 気取る。(Grimm).
5274. *Schalt mich* — *Schalt (sie) mich*. jn. et.⁴ *schelten*. *Maskenstock* — als *Scheltwort*. 仮装の衣裳を着て棒のようにぎちなく見える人間。(Fischer). マネキン人形。(Schmidt). かかし。(Thomas). *Maskenständer*. (Henckmann).
5276. *Angeklungen* — 過去分詞による命令法。vgl. V. 3965, 6720, 7475. = *Stoßt an!* (Arens).
5277. *Maskenstöcke* — 妻から *Maskenstock* と叱られたので、彼は仮装した人人を皆そう言う。(Schröer). 英訳では: „*Mannequins, let's clink our glasses!*“ (Atkins). „*Drink, my hearties, clink-a-clinking!*“ (Luke). かちりと鳴ればそれでよし。(高橋)。
5278. *es* — 非人称主語。ここは *When the glasses go clink, all's right!* (Bruford).
5279. *Sag(e)t nicht* — *ihr* (V. 5268) に対する命令法。
5280. *Bin ich doch, wo* — *Denn ich bin da, wo*. *Doch* と定形倒置。何しろ...だから。強い主張。(関口)。jm. *behagen* = jm. *angenehm, wohltuend sein*. (GWb). *es* — 非人称。
- 5281f. *Borgt der Wirt nicht* — *Wenn der Wirt nicht borgt*. *Magd* — *Dienerin*. (Fischer). *maid*. (Atkins).
5283. = *So I drink at all times! Drink, drink!* (Bruford).
5284. *Auf* — als *Aufruf*. さあ。英訳では *You fellows there, up! Clink, clink!* (Bruford).
5285. *Jeder jedem!* — *Jeder stoße mit jedem an!* (Arens). *so fortan!* — *wei-*

- terhin; mit Bezug auf fortzusetzende Verhaltenweisen, Tätigkeiten. (GWb). そうやって続けるんだ!
5286. *Dünkt mich's doch, es sei getan* — Mir scheint, es sei geschafft (Ich habe jetzt genug). (Arens). そうそう, それでいいんだ。(高橋)。dochは強調。mich'sのesは非人称。sei—— 間接引用の接続法 I。getan—— gut.
- 5287f. sich vergnügen. 楽しむ。Mag —— 許可, 容認。immerhin —— zwar, allerdings, freilich. (GWb). es —— 前行。どうして, どこで己が楽しんだつて, さうさせてくれて好いぢやないか。(森)
5289. *Laßt mich liegen ...* —— bei diesen Worten fällt er hin. (Schröer). *Laßt* —— ihr に対する要求。
5290. *mag nicht ... stehen* —— 立っていたくない, od. 立つことは出来ない, という二つの解釈が可能。I don't feel like standing up. (Atkins). I can't stand up any longer. (Greenberg).
5291. *Chor* —— Trunkner はリーダーの自分よりも, 少しは長く立っていることの出来る, 酒好きの多くの仲間に伴われている, と見なさねばならない。(Thomas). *Bruder* —— 飲み仲間は酔っ払うと互に兄弟の杯を交わすので。(Endres). *trinke, trinke!* —— 命令法。Jeder Bruder (= du) に対する要求。Toastet, 2行下の Sitzet は共に ihr に対する命令法。
5292. *toasten* —— einen toast ausbringen, mit den gläsern beim trinken anstoßen. toast は18世紀に英語の toast から取り入れられた。(Grimm). *ein Tinke toasten* —— グラスを当てて乾杯する。*ein Tinke* —— ひとつ乾杯を。
5293. *Span* —— 薄い板。(Trunz). 空の樽。(Trend.). ベンチの座板。(Endres). Span はベンチの一番小さい部分と思われるので, „Bank und Span“ は意味を強める „一つ“ の表現と考えられる。(Arens).
5294. *Unterm Tisch d e m ist's getan* —— Wer aus Betrunkenheit unter den Tisch fällt, um den ist es geschehen. (Endres). *Unterm Tisch d e m* —— Wer unter dem Tisch liegt, d e m. この隔字体の d e m は普通の字体とほぼ同数。隔字体は強調。Dem と大文字の版もある。*d e m ist's getan* —— mit dem ist's aus. もう駄目だ。(Schmidt). mit dem ist's vorbei. getan, wie V. 4759 verthan. (Loeper).
- 5294+ an|kündigen. *Mitwerber* —— < mitwerben. (一緒に求める) = Mitbewerber. (Heyse). Nebenbuhler. ライバル。(Grimm). *keiner den andern* —— 相互代名詞。keiner は1格, den andern は4格。誰もほかの者を...させない。*Vortrag* —— 詩の朗読。互に詩の朗読を妨げ合う。*Einer* —— Ein Poet = Satiriker. vorüber|schleichen.

以下は V. 5177, 5198 のあとのように, またしてもかなり長い場面の下書きであ

る。(Reclam). *verschiedene Poeten* —— 感傷主義 (18世紀後半) と後期ロマン派との間の、同時代の文学の五つのグループ。文学者同士で互に排除し合う競争は、すでに „Xenien“ がきっかけになっていた。シラーとゲーテがこの „Xenien“ によって、 „Was niemand hören wollte“ (V. 5298) を辛辣に歌った。(Gaier).

Naturdichter —— テーマを自然から手に入れる詩人のことで、決してディレッタントの意味ではない。(Endres). ゲーテの時代にはいわゆる „Naturdichter“ が何人かいた。即ち、J. K. Grüber (1736-1809), G. Hiller (1778-1826), A. Fürnstein (1783-1841) などで、ゲーテの作品や書簡の中で折に触れて言及されている。(Trunz). *Hof- und Rittersänger* —— 王国や騎士道徳に対するロマン的な賛美者のことで、当時では Fouqué (1777-1843). (Arens). Trunz は Fouqué, E. K. F. Schulze (1789-1817), それに多くのロマン派の人たちとしている。

zärtliche —— *Zärtliche* と大文字の版も少しある。抒情的な愛の詩人。(Endres). その例としては „Cäcilie“ や „Die bezauberte Rose“ の作者で、早世した Schulze の名が挙げられる。(Arens). *Enthusiasten* —— 芸術または人類の偉大な理念をテーマとする詩人のことで、通例の同僚としての嫉妬は表面には出てこない。(Endres). 流行作家は誰でも面白いと思うことを書くので、流行作家を拒否する *Satiriker* は、誰も聞こうとは思わないことを書かねばならない。——この節は16世紀に上演されるドラマにあっては、明らかにアナクロニズムである。しかしこのようなことは、Walpurgisnacht (V. 4676ff., 4144ff.) での同時代の人人の登場や、Helena の場 (V. 9907-38) におけるパイロン卿に対する哀悼の歌のように、このドラマの様式に属する。(Trunz).

5295f. *Satiriker* —— 観客の拍手喝采を問題にしない唯一の詩人である *Satiriker* は、自分と自分の行為を皮肉る。(Endres). *mich Poeten* —— *mich als Poeten*. *Erst recht* —— *erst ganz, erst vollständig, erst wahrhaft*. なお一層。(Fischer). *sollte* —— 接続法 II. 婉曲な表現。= *würde*. (喜ばせるものは) 何か御存知だろうか？

5297f. *Dürft', wollte* —— 接続法 II. 仮定。V. 5297 は *Wenn ich singen und reden dürfte*. (それは) 私が誰も聞きたくないことを、歌ったり話したりしてよければ (ということだ)。英訳では *Perhaps you'd like to know/What most would please this Poet?* (Atkins).

5295-98. *Mummenschanz* の前半に位置する *Satiriker* の不規則な詩行について、述べなければならない。ゲーテはここで詩人の *Satiriker* について、全く皮肉な意見さえ述べている。このことは韻律に関しては不規則に作られた詩行で表現されている。ここは韻を踏んだ *Freie Verse* である。

Wißt ihr, was mich Poeten
Erst recht erfreuen sollte?

Dürft' ich singen und reden,

Was niemand hören wollte. (Ciupke).

5298+ *sich entschuldigen lassen* — 不参加を届け出る。mit einem frisch erstandenen Vampyr — with a vampire just emerged from the tomb. (Greenberg). *Vampyr* — meist *m.* で強変化。Herder は die vampyre を用いている。Pl. は vampyre, vampyrs. ゲーテは vampyren と弱変化させている。(Grimm). in et.³ begriffen sein = they are in the middle of. (Luke). *Dichtart* — a new poetic genre. (Atkins). *könnte* — 接続法 II。可能性。かも知れない。et. gelten lassen. hervor[rufen]. *die, selbst in moderner Maske, ... verliert* — which loses none of its character and charm even in modern costume. (Luke).

Die Nacht- und Grabdichter ... — Regiebemerkung. ト書, 下書き. nach V. 5177, 5198, 5294 と同じト書。上演は言うまでもなく考慮されていない。(Reclam)。ここでゲーテは再び読者に対してだけ語りかける。夜と墓の詩人たちが言っていることは、詩作されたものではない。朗読することは出来ない。ぞっとさせることで効果を及ぼすような詩を、ゲーテは夜と墓の詩として嘲笑している。そのような詩はすでにゲーテの時代に出現していた。そしてのちにはフランスとドイツの文学のロマン派の時代に、大きな役割を演じた。ゲーテは 1830 年 3 月 14 日の Eckermann との対話の中で、フランスのロマン派の作家 Mérimée と、恐怖を扱っている彼の „Guzla-Gedichte“ を指摘している: „Es fehlt freilich diesen Gedichten nicht an allerlei schauerlichen Motiven von Kirchhöfen, nächtlichen Kreuzwegen, Gespenstern und Vampiren ... “ ゲーテは「ギリシャ神話のすばらし内容の代りに、悪魔、魔女、吸血鬼が登場する」のを残念に思う。そしてこのような性質の文学が広がるのを、民衆の悪趣味のせいにする。このト書の終りの所で、ギリシャ神話のよりすぐれた特質が暗示されている。(Endres)。

Die Nacht- und Grabdichter ... — ゲーテによって „grausam-widerwärtig“ と言われた 19 世紀初頭の文学の傾向。イギリスの John Polidori (1795-1821) の小説 „The Vampyre“ (1819), ドイツの Gottfried August Bürger (1747-94), E. T. A. Hoffmann (1776-1822) の小説 „Vampirismus“, フランスの Prosper Mérimée (1803-70) の詩集 „La Guzla“ など。(Henckmann)。

vor 5299. *die Grazien* — これからギリシャ神話の人物たちが登場する。彼らと共に極めて真面目なアイディアが、ゲーテによって仮面劇の中に持ち込まれる。Grazien (lat. Gratiae) はギリシャ神話では、Chariten (Charitinnen とも) 呼ばれていた。ヘシオドス以来一般に Aglaia (Glanz), Euphrosyne (Frohsinn), Thalia (blühende Glück) という三人の女神の名前が挙げられている。しかし Thalia は主にミュージックとして登場するので、ゲーテは Hegemone (Führerin) という名前を選んだのだろう。

Grazien はここでは全くその起源に相応しく、優美な女神たちとして考えられている。しかも与えるとき、受け取るとき、感謝するときの優美という三重の形で。同じような分類はセネカにも見出される。(Endres).

Benjamin Hederich: Gründliches mythologisches Lexikon, Leipzig 1770, S. 1177, 1180 によれば, **Grazien** は „Annehmlichkeit, Wohlthaten, Dankbarkeit“ の女神である。彼らは三人である, 一人は **Wohlthat** を与え, もう一人はそれを受け取り, 三人目はそれを返す, あるいはお礼をするので。(ここに登場する **Hegemonie** の代りに, もとの原作者ヘシオドスでは **Thalia**)。ゲーテの詩行はこの **Hederich** の役割に従っている。(Schöne). アテネの市民は神話とは異なり, **Hegemone (die Führerin)** と **Auxo (die Mehrerin)** という二人の優美の女神を崇拝していた。(Schröer).

Grazien は生を幸福にしてくれる女神として, 好意的な愛情を暗示するものである。ヘルダーはその物語 „Das Fest der Grazien“ の中で, セネカの „Einige meinen, es gebe eine Grazie, welche die Wohlthat austeile, eine andere, die sie empfangt, eine dritte, die sie zurückgibt.“ という箇所を指摘している。(Düntzer).

5299. *ins Leben* — 「人の世に」, 「この世に」, 「世に」, 「人生に」などの訳がある。「この世に」が望ましい。

5300. *Leget* — ihr に対する命令法。次行の *Leget* も同じ。この2行の英訳は: „We bring grace into your lives ;/ When you give, be gracious too.“ (Atkins).

5302. *ist's* — ist es. *es* — 後半の *den Wunsch (zu) erlangen. den Wunsch erlangen* — iSv erfüllt bekommen. vgl. V. 4658. (Gwb).

5303f *in stiller Tage Schranken* — in den Schranken stiller Tage. 静かな日々が続いているうちは。(高橋)。 *sei* — 接続法 I. *das Denken* に対する要求。この2行について **Endres** は次のように述べている: ゲーテがここで言いたかったことは恐らく「極めて切り詰めた環境に於ても, もしくはそのような環境に応じたささやかな贈物の際にも, 感謝は優美であるべきだ」ということであろう。

vor 5305. *Die Parzen* — *lat.* Parcae, *griech.* Moirai. 太古の運命の女神たち。**Klotho**, **Lachesis**, **Atropos** のこと。**Klotho** は紡ぐ女神を, **Lachesis** は割り当てる女神を, **Atropos** は避けることの出来ない女神を意味する。普段は **Klotho** は生命の糸を紡ぎ, **Lachesis** はそれをさらに続ける。**Atropos** はそれを切断する。カーニヴァルのこの最後の数日のうちに, **Klotho** と **Atropos** は役割を取り替える。なぜなら **Atropos** はくだらない多数の人間の生命の糸を, 余りに長く延ばしたり, 逆に有望な若者の生命の糸を, 余りに早く断ち切ったりしたからである。(König).

5305-44. **Hederich** S. 1880f. によれば, **Parzen** は人間の運命と生命を手中に納めている女神たち: „die Göttinnen, in deren Händen das Schicksal, und also auch das

Leben eines jeden Menschen stund. (...) Klotho hielt von ihnen einen Rocken, Lachesis spann von solchen einen Faden, und wenn selbiger so lang war, als er seyn sollte, so schnitt ihn Atropos mit einer Schere ab.“ 陽気なカーニヴァルのために、はさみと結びついた死の考えはもちろん完全に排除される。Parzen の仮装をした女官たちは、この場所を楽しむように順応している。避け難く生命を絶ち切る古典古代の神話の Atropos は、このたびは糸を紡ぐ Klotho の役割に代っている。一番若い Klotho は死のはさみを、その貴婦人らしい、かわいい鞆に差したままにしておく。(Schöne).

5305f. jn. zu et. einladen. 現在完了。

5308. es gibt et.⁴. 前行が補足語。この2行の英訳は: „Care and thought are greatly needed ☒When the thread of life is fragile.“ (Atkins).

5309. *Daß* — Damit. *er* — Lebensfaden. *euch* — カーニヴァルに参加している人々への呼び掛け。3格。(Heffner). *sei* — 接続法 I. *Daß* (Damit) に応じたもの。

5310. zu tun wissen. *sichten* — sondern. えり分ける。(Grimm). *sondernd läutern*. (Fischer).

5311. *Daß er ...* — 2行上と同じ。

5312. *schlichten* — übertragen auf das glätten des Fadens beim spinnen. 滑らかにする。(Grimm).

5313f. *Wolltet ihr bei ... euch erweisen* — Wenn ihr bei ... euch erweisen wolltet. *wolltet* — 接続法 II. 仮定. *Lust* — pleasures. (Luke). *üppig* — übermütig, frech, vermessen. (Grimm).

5315. *Denkt* — ihr に対する命令法. *dieses Fadens Grenzen* — die Grenzen dieses Fadens. *Grenzen* — 限界, 限度. (Heffner). an et.⁴ denken.

5316. *Hütet euch!* — ihr に対する命令法. *Er* — 前行の Faden. *möchte* — might possibly. (Heffner). könnte. かも知れない。

5317f. *Wißt* — ihr に対する命令法. 以下が補足語. *vertrauen* = anvertrauen. (Fischer). 受動。

5319f. *Unsrer Alten* — 2格. Parzen のなかで一番年長の Atropos. (Gaier). *erbauen* — befrieden. (Fischer). erfreuen, ergötzen. (GWb).

5321f. *Zerrt* — 3行下の Schleppt と同じく現在形. (Heffner). 倒置は韻律上強音の *Zerrt* を文頭に出したことによる. *zerren* — altes Verb = reiend ziehen. (Fischer). ruckweise und anhaltend. (Grimm). *Gespinst* — das gesponnene; das garn, der faden. (Grimm). in mythol Zshg für den von den Parzen gesponnenen, zugemessenen u abgeschnittenen Lebensfaden. vgl. Hederich S. 750.

- 生命の糸。(GWb). *unnütze Gespinnste* — die Lebensdauer unnützer Menschen. (Endres). *sie* — Atropos. 主語。2行下の *sie* も同じ。*Licht und Luft* — 共に4格。et. an et.⁴ zerren. ここは何の役にも立たない人間の生命の糸を、Atropos は無意味に引き伸ばすということ。(Endres). この2行の訳は：何の役にも立たない糸を、日の光と空気にさらして引き延し。(秦)。
- 5323f. *Gewinst* — jüngere nebenform zu gewinn. für den geschäftsvortheile. 利益。(Grimm). *Hoffnung herrlichster Gewinste* — 4格。das Leben vielversprechender Junger. (Endres). hoffnungsvolle Lebensfäden. (Schröer). *Gruft* — Grab; in bildhafter Umschreibung des Todes. (GWb). ここは前途有望な青年の生命の糸を、Atropos は容赦なく断ち切るということ。(Endres)。
- 5325f. *im Jugendwalten* — in der der Jugend eigenen Unbesonnenheit. (Düntzer). *Jugendwalten* — iSv jugendlich-unbedachtes, übereiltes Handeln. (GWb). sich irren. 英訳では Still, when I was young and active / I made hundreds of mistakes. (Atkins)。
- 5327f. *Heute mich im Zaum zu halten* — (Um) heute mich ... zu halten. sich im Zaum halten. 自分を抑える。*steckt* — *intr*: stickt の版もあるが古い。(Endres)。
- 5329f. *Und so* — だから。*gebunden* — binden の *P.P.* verpflichtet (die Schere nicht zu gebrauchen). (Schöne). *Blicke* — (Ich) blicke. *diesem* — V. 5272 と同じ3格。(Düntzer). *diesem Ort* — auf diesen Ort. (菊池)。英訳では：I'm glad to practice self-control; / Around I look with kindly eye. (Greenberg)。
- 5331f. *Ihr ... Schwärmt* — どうぞ遊んで下さい。Ihr のある命令。*nur immer fort und fort* — さあ、どんどんつづけていつまでも。ここはつまり = Fürchtet nichts von uns für euer Leben. (Schröer)。
- 5333f. *Lachesis* — 寿命を左右する Lachesis (das Geschick) は、自分は Parzen の中で一番分別があると言う。(Endres). *Mir; die* — 先行詞と関係代名詞。行末に *bin* を補う。(Heffner). ここは寿命を割り当てる Lachesis だけに、„Ordnen“ の役割が与えられたということ。(Henckmann)。
- 5335f. *Weife* — 糸車。= haspel, auf die wolle, baumwolle, leinen- und seidenfäden von der spule gewickelt und mit deren hilfe die gespinste in form von strähnen gebracht werden. (Grimm). *Meine Weife, stets lebendig* — Die stets lebendig im Kreis von mir geschwungene Haspel. (Henckmann). ここは = Die Weife hat Lachesis noch nie „übereilt“, zu hastig gedreht. (Gaier). 現在完了。
5337. *Fäden weifen* — schwingen sich um die Weife. 糸車に巻きつく。weifen は

- ここでは *intr.* (Grimm). *Lachesis* は人間の寿命を合法的に導く。従って人間の寿命は、糸車の糸と同じく好き勝手に方向を変えることは出来ない。(Endres). *Fäden* — (Lebens-)Fäden. (Schöne).
5338. *Jeden* — *Jeden Faden. ich* — *Lachesis. seine Bahn* — 4格. (in) *seine Bahn*.
5339. *Keinen* — *Keinen Faden. überschweifen* — 定められた位置から外れること。(König).
5340. *Füg' er sich ... heran* — *er* に対する要求。接続法 I. *er* — *Faden. sich im Kreis heranzufügen* — vom Faden der Parze iSv in der richtigen Spur laufen. (GWB). *im Kreis* — 輪になって。ぐるぐる回って。Füg' er の倒置は韻律による。ここは = Er soll sich um Kreis den andern (Fäden) anfügen!
- 5341f. *Könnst' ich ... vergessen* — Wenn ich einmal mich vergessen könnte. *Könnte; Wär'* — 接続法 II. 仮定。es ist mir um et. bang. 私は...が心配だ。es は非人称。もし *Lachesis* が糸を巻き上げる際に、とても念入りに糸を数えるという役目を果たさなければ、人間一人一人の、従って全世界の運命は混乱するであろう。(Trend.).
- 5343f. *zählen, messen* — 二つの解釈が可能。Stunden と Jahre をそれぞれ主語とする *intr.* とするか、あるいは *inf* で muß ich (*Lachesis*) を補うとする解釈。後者では Stunden と Jahre は補足語。英訳では „Hours are counted off, years are measured.“ or „(I must) count off hours, measure off years.“ (Heffner). *der Weber* — Gott, vielleicht auch der Tod. (Reclam). Schöpfer. (Trend.). しかし H. Arens は神と解釈することは出来ないだろうと言う。ここは Parzen の話なので Arens の意見に賛成したい。nimmt — übernimmt. (Fischer). *Strang* — Strähne (棹) の意味で Haspel (糸車) から取られるような糸の束のこと。(Schröer). Die Gott-Natur am sausenden Webstuhl der Zeit (V. 508) übernimmt für ihr Werk das Bündel der gesponnen (Lebens-) Fäden. (Schöne).
5345. *Die jetzo kommen* — Diejenigen, die jetzt kommen. Diejenigen は4格で2行下の Sie. *werdet* — 現在の推量。
5346. *Wärt ihr noch ...* — Wenn ihr in alten Schriften noch so gelehrt wärt. 接続法 II. 仮定。noch so — たとえどんなに。
5347. *Sie anzusehen* — Wenn ihr sie ansieht. (König). 同じ構文の V. 4877. 参照。(Arens). *die* — 関係代名詞。先行詞は Sie. *stiften* — verursachen. (Grimm).
5348. *Ihr würdet ...* — *Werdet ihr sie willkommen heißen.* (Schöne). *würdet* — 接続法 II. 外交的用法。したがってこの *würdet* は推測を表す *werdet* で置き換えられる。前文との関係で Schöne の倒置文が妥当。

5349. *es* — 紹介の *es. uns* — 3格. *die Furien* (lat. Furia = die Rasende, Wahnsinn Erregende) — ローマ人がギリシヤ人から受け継いだ女神たち。ギリシヤ神話では *Erinnys* エリーニウス (復讐の女神) と呼ばれていて、倫理的秩序に反するあらゆる悪事を、不気味に復讐する女神として登場する。この *Erinnys* をお世辞のような名前で呼んで、*Erinnys* が一段と宥和的な気持ちになるように、彼女たちは婉曲に *Eumenides* エウメニス (Wohlgesinnte) と呼ばれていた。彼らの起源は靈魂崇拜にあると認識していた *Hesiod* によれば、彼らは *Uranos* が *Kronos* から去勢されたとき、その *Uranos* の血が滴り落ちた大地から生まれた。古代のアテネでは彼らは *Semnai* = *die Hehren* (気高い女神) と呼ばれていた。古代の芸術でも静かにたたずむ、長い衣をまとった、厳かな女神として表されていた。しかしのちには若い娘として、それからまた地獄の靈 (蛇) の特徴をもった恐ろしい女の姿としても表現された。ゲーテはここでこの女神たちを、古典的に美しい姿で登場させている。カーニヴァルの掟に応じてこの女神たちは、自らの本質について正直に情報を提供しなければならぬ。(Endres).

この *Furien* の一風変わった解釈は、„*Macbeth*“ の魔女に影響されている — この魔女をゲーテはワイマルの劇場で「若い優美な娘」として登場させた — また *Grazzini* (1503-84) のバラードの冗談めかした表現に影響されたのかも知れない。Hederich も最古の時代における彼らの肖像画には、恐ろしいところは何もなかったと書いている。陽気な祭の仲間のサークルにあつては、この女神たちが *Hederich* によってぞっとするように描写された通常の姿で登場することは、もちろんあり得ない。ここで彼らは以前のように愛の幸福の敵として、つまり一般に不幸をもたらす女神として、しかも *Hederich* によって表現された彼らの特別な役割に応じて登場する。その役割によれば、*Alekto* は戦い (ここでは愛のいさかい) を、*Megära* は伝染する疫病 (ここでは気紛れと不誠実) を、*Tisiphone* は死を、それぞれもたらす女神である。vgl. *Hederich* 1770, S. 1128ff. (Witkowski). *Furien* はギリシヤ神話の *Erinnyen* のことで地下に住んでいて、そこから地上の世界の不正に罰を下した。通常は恐ろしい姿で表現されている。この三女神はギリシヤの悲劇詩人 *Euripides* によって初めて登場する。(König).

5350. *Hübsch, wohlgestaltet, ...* — (Die Furien sind) hübsch, wohlgestaltet, ...

5351. *Laßt ... ein* — *ihr* に対する要求. *sich mit jm. einlassen*. 人と関り合う。

ihnen — 2行上の *Furien*. *ihr sollt erfahren* — *ihr* werdet erfahren.

5352. *Wie schlangenhaft verletzen solche Tauben* — vgl. das Evangelium Mattäi 10, 16: „seid klug, wie die Schlangen, und ohne Falsch, wie die Tauben.“ 1. Mose 3, 1: „Und die Schlange war listiger, denn alle Thiere auf dem Felde, die Gott der Herr gemacht hatte.“ (Endres). *solche Tauben* — 前行の *ihnen*. こ

- こは = Obgleich sie wie unschuldige Tauben aussehen, verletzen sie tödlich wie Schlangen. (König).
- 5353f. Zwar ... doch. *sie* — Furien. 2行下の *sie* も同じ。Wo — 前行の am heutigen Tage. *sich* eines Dinges rühmen.
5355. *Auch sie verlangen nicht ...* — Da verlangen auch sie nicht ... (Schöne).
こは Am heutigen Tage, da jeder im Mummenschanz Mitwirkende sein Wesen offen darstellt, verlangen auch sie nicht den Ruhm, als Engel zu gelten; sie geben ihre Heimtücke offen zu. (Reclam).
5356. 以下においてゲーテは、復讐の女神たち (Die Furien) を人間の情熱の代理人として表現する。そのような情熱は無数の人間を支配しているので、彼女たちは町や地方の災いのもとなのである。(Endres). *sich als et. bekennen*. Herold の新たな穏やかな調子と共に、Jambus の Fünfheber の Blockreim (a b b a) が響き始める (V. 5345-56)。それから Furien の最初の二人 Alekto と Megära もこれを引き継ぐ (V. 5357-80)。これに反して3番目の Furie の Tisiphone は、仮装舞踏会特有の話し方 Trochäus の Vierheber で語る (V. 5381-92)。従ってゲーテがこの人物を、他の二人の Furien から際立たせているのは明らかである。一団の仮装行列の内部で、韻律のこのような極端な転換があるのはこの箇所だけである。この転換の役目の解釈は、私にはうまく行きそうにない。Kurt May はこの転換を3番目の Furie のかなり派手な真面目さと危険性への指摘と解釈するように提案している (vgl. May 19 62, 26f.)。 (Ciupke).
5357. *Alekto* — 古代神話では戦争を惹き起す女神。ここでは悪いゴシップを流して愛する二人の間に不信の念を呼び起こす。(Henckmann). *es* — 上の Herold の話。そんな話はあなた方にとって何の役に立つのか? 何の役にも立たない。(Heffner). *uns* — die Furien. *ihr werdet uns³ vertrauen* — 私たちを信頼するでしょう。
5358. *Schmeichelkätzchen* — eigentlich, sich anschmiegende, streichelnd liebkosende katze, meist bildlich von personen, besonders von mädchen und kindern. (Grimm).
5359. *Hat einer ...* — Wenn einer unter euch ein Liebeschätzchen hat. *Liebeschätzchen* — Schatz, Geliebte. (Endres). Liebe-Schätzchen の版もある。
- 5360f. *ihm* — 前行の einer. die Ohren の所有者。次行の ihm も同じ。*die Ohren krauen* — mit den Fingerspitzen hinter den Ohren zart streicheln, was besonders die Hunde und die Katzen sehr gerne haben; hier bildlich für schmeicheln. (Endres). *krauen* — altes hochd. Wort = liebkosend kratzen oder streicheln. (Fischer). *so lang ... Bis. lang* は lang', lange の版もある。*dürfen* — können.

- Aug' in Auge* — von Angesicht zu Angesicht. 面と向って。(GWb). この2行の英訳は: We'll tickle his ears with blandishments / Until the time has come to tell him privately. (Atkins).
5362. *sie* — V. 5359 の Liebeschätzchen. (Heffner). *dem, jenem* — 指示代名詞 *der, jener* の3格. *winke* — 接続法 I. 副文章の場合. 次行の *hinke*, 2行下の *tauge* も同じ.
5363. *dumm* と *krumm* のあとに *sei* を補う。(高橋)
- 5364 *Braut* — 花嫁. *taugen* — nützen.
- 5365 *so* — このように. 同じように. *bedrängen* — beunruhigen, aufregen, ängstigen. (GWb). *zu tun wissen*.
- 5366f. *Es* — 形式上の主語. *der Freund* が真の主語. *der Freund* — *der Bräutigam*. (König). *sogar* — さえも. *Verächtliches* を強める. *ihr* — 2行上の *die Braut*. *zu der* — *zu einer Bestimmten*. あの女に, 例の女に. (Schröer). 隔字体は強調. 英訳では: to Miss So and So; to that other girl; to someone else など. 現在完了. この2行が *bedrängen* の内容. (König).
5368. *Versöhnt man sich* — Wenn man sich (auch) versöhnt. たとえ仲直りしても. *man* — *Braut* と *Bräutigam*. *so bleibt doch etwas hängen* — 何かしこりが残る。(菊池). ラテン語からの引用: „Audacter calumniare, semper aliquid haeret.“ (= „Nur tapfer verleumden, irgend etwas bleibt immer hängen!“). Baco von Verulam (1561–1626) によって初めて格言として用いられた. 色々な噂や中傷のあとで, 恋人同士が再び仲良くなっても, 不信の種は増殖する. (Endres). *hängen|bleiben*.
5369. *Megära* — die Neidische. 結婚生活の邪魔をする女神として登場する. (Endres). *Das* — was Alekto dem Brautpaar gegenüber getan hat. (Reclam). *nur Spaß* — 以下のことに比べると取るに足りない. (Düntzer). *sind sie erst verbunden* — wenn sie erst verbunden sind. *sie* — jenes Pärchen. (Arens). *Liebende*. (GWb). *verbunden* — verheiratet. (König).
- 5370f. *es* — V. 5368 の etwas. (Düntzer). *Megära* の前任者 Alekto の仕事. (Arens). *auf|nehmen*. *Grille* — Grüberei, Angst, Sorge. (GWb). *trübselige, sorghafte gedanken*. (Grimm). *vergällen* — zur Galle machen, verbittern. (Fischer). *zu tun wissen*.
5372. *ungleich* — ungleichmässig, wechselvoll, launisch, wankelmütig. (Grimm). *Stunden* — 各個人の天宮図を決定する天文学の時間のこと. どの天宮図も個人の誕生の瞬間に選ばれるので, この天文学の時間は各個人により異なる. vgl. V. 4949. (Heffner). *Megära* は結婚した夫婦の所有している幸福から, 決して届くことのない

- い幸福へと彼らの憧れを導いて、それによって彼らに愚かな苦痛を与える。(Reclam). z.B. V. 5036, 5467f., 5800, 6304, 7083, 7190, 7443. (Schmidt).
5373. *Erwünschtes* — < erwünschen = etw. herbeiwünschen, erhoffen, ersehnen. (GWb).
5374. *Der* — 指示代名詞。= Niemand. *Erwünschterem* — more desirable. (Atkins). *törig* — ゲーテは *töricht* の代りに *törig* をよく用いた。V. 591, 2758 では *töricht*. (Fischer). *sehnte* — 否定話法による接続法 II. *sich nach et. sehen*.
5375. *Vom höchsten Glück* — *Der nicht vom höchsten Glück träumte, woran träumte* — träumen würde. ここは F. Hintereder-Emde 氏の示唆による。
woran — wo(r) は Glück. *er* — der Mensch (V. 5372). 次行の *er* も同じ。
gewöhnte — 直説法過去。 *sich an et.⁴ gewöhnen*. この2行は二重否定を用いた強意
「... しないものは一人だっていない。」
- 5376 *fliehen* — *tr. einem geflissentlich aus dem Wege gehen* ; als verstärkt. „meiden“. (Fischer). *will* — (er) will. *erwarmen* — *tr. etw wärmen, erhitzen*. (GWb). *Reim* のため *erwärmen* の代りに用いた。(Düntzer). この詩行の意味するところは、彼は冷たい女を手に入れたいので、自分を本当に愛している女を拒むということ。(Reclam). *will am Frost erwarmen* の方が前後の関係から、より適当と言えるだろう。(Thomas).
- 5377f. *mit etw./jdm (selten) gebaren* — *mit etw./jdm umgehen*. (GWb). *zu tun wissen. Und (ich) führe. her|führen. Asmodi* — ベルシャ神話のデーモン。旧約聖書外典のトビト書3, 8にも出ている。彼は結婚式の夜に Sara の7人の夫を次々に殺す。そのため Eheteufel と見なされる。(Erler). ここでは Asmodi は不貞への誘惑者と理解されているように思われる。(König). *den Getreuen* — *den mir Getreuen*. (König). = Asmodi.
5379. = (Um) *zu rechter Zeit Unseliges auszustreuen*. 前行にかかる。
5380. (Ich) *verderbe. so* — このように。 *das Menschenvolk in Paaren* — つがいになっている連中。
- 5381f. *Tisiphone* — この名前はギリシャ語の Rache と Mord を意味する。従って殺人に対して復讐する女神の意味。彼女は特に町や田舎を伝染病で襲うのに必要とされた。(Hederich). *Gift und Dolch* — 共に4格。次行の *Misch'* と *schärf'* の補足語。 *Misch' ich (Gift), schärf' ich (Dolch)*. (Henckmann). *dem Verräter* — 愛の誓いを守らない裏切り者は、毒や短刀で死なねばならない。(Heffner).
5383. *Liebst du andre* — Wenn du and(e)re liebst. *früher; später* — late or soon. (Atkins).

5384. *Hat ... durchdrungen* — 未来を生き生きと表現する現在完了。(Heffner). 未来において完了することが確実であることを示す現在完了。(橋本)。= (ruin) will run you through (as a sword runs through its victim). (Heffner).
- 5385f. *Muß ...* — (Da) muß ... その時には... (Schöne). *muß* — 話者の確信。(きつと変わります。) *Süßtes* のあとに *doch* を補う。(高橋)。 *der Augenblicke Süßtes* — das Süßteste der Augenblicke. = die eheliche körperliche Vereinigung. (Endres). die Wonne des ersten Liebegeständnisses. (Düntzer). *Gischt und Galle* — schäumende Wut und äußerste Verbitterung. (Endres). gärende Galle. (Fischer). = Gift und Galle. 憎悪と怒り。頭韻を踏んだ慣用句。(Thomas). 古い精液説と結びついて、*Wut und Haß* の興奮を表す。(GWb). ゲーテは恐らく *Gift* (V.5381) の繰り返しを避けるために、沸き立つ泡を出す液体を表す „*Gischt*“ を選んだのだろう。(Gaier). ここは憤怒の叫び = *Daß doch Süßstes sich in Galle wandeln muß!* (Trend).
5387. *Hier, hier* のあとにそれぞれ *ist* を補う。 *markten* — dinge, feilschen, handeln, den Preis drücken. vgl. V. 5116f. (Fischer).
5388. *Wie er es beging'* — Wie er es begangen hätte. (Schröer). *beging'* — *beging'* より *beging* の版の方が多い。 *er* — V. 5382 の Verräter. (Heffner). *es* — Verräter が犯したこと。(Heffner). *er büßt es* — er soll es büßen. (Schröer).
5389. *Singe* — 接続法 I. *keiner* に対する要求。 *sage* でよい。英訳では : Let none say 'Forgive, forgive!' (Bruford). = *Keiner soll vom Vergeben singen!*
5390. *Felsen* — 3格。無慈悲な岩。(Schöne). *jm. et. klagen*.
5391. *Echo!* — Gaier は岩の姿をした *Nymphe Echo* とする。あとに *Ausrufezeichen* のない版の方が多い。 *horch!* — 命令法。あとに *Ausrufezeichen* のない版もある。 *Echo, horch! ... od. Echo, horch, ...*
5392. *wer wechselt* — wer (seine Liebe) wechselt. (Trend.). *(der) soll nicht leben* — 生かしてはおかぬ。
5393. *Belieb'* — 接続法 I. *es* に対する要求。強調による定形倒置。 *es* — 後半の *zu* 不定詞句。 *euch* — 3格。前の *Die Grazien, Die Furien* の女神たち。 *jm. belieben*. 英訳では : Now more aside, make way, if you don't mind. (Luke).
- 5394ff. *von euresgleichen* — von eures Gleichen の版もある。 *von* — 材料を表す。それから一般にある事の性質や状態を表現するのに用いられる ; *tadel ist von keiner kraft*. (Grimm). 生命と神話の人物たちに続いて、寓意的なグループが登場する。山、即ち、象には民衆の力が象徴的に表現されている。この民衆の力は一(国家の)知恵に意味深く導かれて (V. 5399f.) — あらゆる活動の女神 (V.5456) である

勝利の女神 *Viktoria* のシンボルの下に現れる (V. 5401)。このグループを取り上げるようにゲーテを促したのは、*Andrea Mantegna* (1431-1506) の絵 „*Triumpfung des Julius Cäsar*“ (1492) である。この絵をゲーテは *Andrea Andreani* の木版画のコピーで持っていた。同様に 1827年 2月 26日のゲーテの日記によれば、*Ptolemaeus Philometer* の華麗な行進についての *Athenaeus* の描写からも示唆を得ている。ゲーテは象を舞台につれてくることを真面目に考えていた (zu *Eckermann* am 20. Dezember 1829). (*Erler*).

5395-98. *ein Berg* — 塔を背負っている象。 „*zierlich-zarte Frau*“ (V. 5399), 即ち, *Klugheit* によって導かれている巨大な国家の象徴。 (*König*). 山のように近づいてくる象は、ここでは大衆の力としての社会を代表している。この象を国家のアレゴリーではなくて、社会のアレゴリーとして理解するのは、恐怖と希望を „*Gemeinde*“ (V. 5443) から、即ち、まさしく社会から遠ざけるという知恵の言葉によって支持される。 (*Henckmann*).

5395. *wie sich ... herangedrängt (hat). herandrängen — intr u refl: ungestüm, druckvoll nahekommen ; übertr auch iSv sich aufdrängen, sich in den Vordergrund schieben.* (*GWb*).

5396. *die Weiche(n)* — weicher Körperteil zwischen Rippen und Lenden. 脇腹。 (*Heyne*). *et.⁴ mit et.³ behängen. et.³ を et.⁴ にかける。* ここは (*Wie*) *die Weichen stolz mit bunten Teppichen behängt (sind)*.

5397. = *Und ein Haupt⁴ mit bunten ... mit* — 持っている。

* 5398. *Geheimnisvoll* — (*Das ist*) *geheimnisvoll. Schlüssel* — この寓意的なグループを理解する鍵。 (*Schöne*).

5395-98. 英訳では : „*You see a mountain pushing toward us / Whose flanks are proudly hung with brilliant tapestries, / And from whose head long tusks and snakelike trunk extend ; / This seems a mystery, yet I'll give you its key.*“ (*Atkins*).

5399. *Im Nacken sitzt ihm* — *In seinem Nacken sitzt. zierlich-zarte* — 二つの形容詞の幹母音のリズムが似ているので、-で結んだ。2行下の *herrlich-hehr* も同じ。

5400. *ihn* — *den Berg (Elefant)*.

5401f. = *Die and(e)re, droben stehende herrlich-hehre Frau.* 4格。 *Umgibt* の補足語。あとで知恵によって語られる、思慮深いあらゆる行為の女神である勝利の女神 *Viktoria* (V. 5455f.) のこと。 (*König*). *der* — 前の *Glanz* を指す指示代名詞。

5403f. *gekettet* — *gekettete. edle Frauen* — 次行から二人であることが分かる。生命の危険におびえて無力な „*Furcht*“ と、不安は一切無視するが何もしない

- „Hoffnung“. (König). 鎖で縛られた相反する気質の二人の貴婦人が, „Furcht“ (V. 5407-22) と, „Hoffnung“ (V. 5423) として自己紹介する。Anton Francesco Grazzini の „Trionfo della prudenza“ (Triumph der Klugheit) でも, 二人が仮面をつけて登場していて, „知恵“ によって生命の敵として縛られている。(Henckmann). *Die eine (ist) bang* — あとに *zu schauen* を補う。
5405. *Die eine wünscht* — *Die eine wünscht (sich⁴ frei)*. 従って „Furcht“ は自由ではない。これに反して „Hoffnung“ は, 自由ではなくても自分を自由だと感じている。(Reclam).
5406. *Verkünde* — 接続法 I. *jede* に対する要求. *jede* は一人一人。(森)。 *sie* — *jede*.
- 5407f. *Furcht* — ここでも—古典古代に評価されているように, 人間の最大の敵の一つと言われる恐怖は, 一貫して妄想を惹き起す力として, 即ち, 彼岸の世界 (V. 5421f.) に対する恐怖と同様に, 社会 (V.5407-20) に対する不安として自己を表現する。(Henckmann). *durstig* — *Rauch von Fackeln, Kerzen uä.* (GWb). くすぶる。(桜井)。 *Lichter* — *für eine (brennende) Kerzen; neben 'Fackel', 'Lampe'*. (GWb). *dämmern* — *halbhell, halbdunkel sein.* (Fischer). *von Lampen-, Fackel- u Kerzenlicht ; mehrf in der Kennzeichnung magisch-ungewisser Lichterscheinung, auch als Widerspiegelung einer düsteren Seelenstimmung.* (GWb).
- 5409ff. 恐怖は仮装行列の無害な行為に没頭することは出来ない。そしてここでも欺瞞と災いを嗅ぎつける。愉快な笑いさえも, 恐怖には邪推への動機を与える。(Trend.).
- 5409f. *Truggesicht* — *trügerisches Gesicht.* (Fischer). 幻の姿。(森)。 *fest|bannen* — *durch eine Kette fesseln.* (GWb). この2行の英訳は: „Among faces of illusion / I am bound, alas, so tight!“ (Luke).
5411. *Fort* — 以下の *ihr ... Lacher* に対する要求. *überwiegend imperativ als (Selbst-) Aufforderung zum Weggehen, Verschwinden.* (GWb).
5412. *Grinsen* — 動名詞. *in Kennzeichnung von jdm unangenehm, widerwärtig, tückisch oä erscheinenden Personen od Gesichtszügen.* (GWb). *gibt Verdacht* — *weckt den meinen Verdacht.* (Schöne). *Verdacht* — *自分に敵意を抱いているのではないかという疑い.* (Heffner).
5414. *drängen* — *bedrängen, bedrücken.* (Fischer). *heftig antreiben.* (Grimm). *jdn einengen, (räuml u /od psych) bedrängen.* (GWb).
5415. *Hier!* — ほら! 現在完了。
5417. *Jener* — 2行上の *ein Freund*.
5418. *entdeckt* — *P.P. davon|schleichen.* われに見知られて, 今逃げ去らむとす。(森)。

5415-18. 被害妄想の „恐怖“ には、友人も敵のように思われる。(Trend.).

5419-22. *in jeder Richtung* — nach allen Seiten. (Schröer). *zu der Welt hinaus* — この世から外へ。 *Flöh'* — < fliehen. 接続法 II. 実現不可能な願望。 „zu der Welt hinaus“ の zu というこの短い単語が、全文の意味を特徴づけている。その意味というのは、恐怖がこの世から外へ逃げたがっているのを、それどころか破滅が脅かしているのを、彼岸から眺めるとかいうのでは全然なくて、恐怖はただ仮装舞踏会から離れて、皇帝の居城の外の世界へ行きたいだけなのである。しかし外では破滅が恐怖を脅かす。そこで恐怖は祭の *Dunst* と、外の世界の *Graus* の間の絶望的な状態の中に引き留められる。ゲーテが言いたいのは、国家においてはそのような恐怖によっては、何一つ始らないということである。恐怖が自由になって人々を捉えるや否や、一切は破滅する。(Endres). *von drüben* — *draußen in der Welt*. 外の世界で。外部に逃げても何の役にも立たないだろう。カーニヴァルの間は人間は皆恐怖の敵なのだから。(Thomas). *Hält* — 主語は *Vernichtung*. *Dunst* — *der Fackeln und Lichter im Saale*. (V. 5407f.). (König). *Graus* — 恐怖が敵と見なしている *die grinsenden Masken*. (V. 5411-18). (Schröer).

5423. *Seid begrüßt* — ようこそ。 *Seid* は *ihr* に対する命令法。歓迎の言葉。 „恐怖“ とは違って „希望“ は、社交的で軽い、明るく響く口調で話す。 „希望“ は回りに立っている仮装した女性たち、 „*Furien*“, „*Parzen*“, „*Grazien*“ に挨拶する。(Arens). „恐怖“ は男たちについて語っていた (V. 5411). (Düntzer).

5424f. *Habt ihr euch ... gefallen* — *Wenn ihr euch ... gefallen habt. sich³ in Vermummungen³ gefallen*. 仮装して楽しんでいる。現在完了。

5426f. *Weiß ich doch* — 強調による倒置。 *von allen* — *von allen Schwestern. Morgen* — *Aschermittwoch*. 灰の水曜日。カーニヴァルの2日間は、彼らは *Furien* や *Parzen* などの役割で、自分が誰か分からないようにしなければならなかった。明日からは彼らはまた自分自身になる。(Arens). *enthüllen* — *entlarven, aufdecken, preisgeben, auch iSv demaskieren; vereinzelt rfl.* (GWB).

5428f. *Und wenn* — けれども。 *bei Fackelscheine* — „恐怖“ の最初の言葉のように、おぼろな松明の光。(Arens). *sich³ behagen*.

5430ff. 批判する力のない „希望“ と結びついた気ままな行為への憧れが、これらの詩行で暗示されている。(Endres).

5430. *Werden wir* — 不定詞は3行下の *wandeln*, 4行下の *ruhn* と *handeln*, 6行下の *entbehren* と *erstreben*.

5436. *entbehren* — *Mangel, Not leiden*. (GWB). *erstreben* — *strebend erlangen*. (Fischer). *etw. zu erreichen suchen*. (GWB). V. 5434-36 の訳は：せまほしき事して、疲れて憩ひ、 / 憂を知らで日をくらし、 / よろづ事足り、つねにいそしみ。

(森)。

5437f. *willkommne Gäste* —— 次行の *wir. wir* —— „希望“ と仮装した婦人たち。(Heffner). *hinein* のあとに *in den gedrängt vollen Saal* を補う。(Trend.). *hinein|treten*.

5439f. *es* —— 形式上の主語。 *das Beste* が真の主語。我々が „希望“ を持ってしっかり周囲を見回すなら、最善のものをどこかに見つけるに違いないということ。(Heffner). 度を越した楽天主義。(Endres). 結論として言うことができるのは、 „希望“ は全く社会と共に生き、社会の中で生きる。 „恐怖“ は社会を避けるということである。生に対する極めて深い不安と、底の浅い楽天主義を表す二人の寓意的人物がこのように登場する。(Arens).

5441. *Zwei* —— 4格。次行の *Furcht und Hoffnung*.

5442. *Furcht und Hoffnung* —— *Angst und Illusion*. (Henckmann). *angekettet* —— 鎖につないで。 *adj.* (sind) *angekettet*.

5443. *Gemeinde* —— *Gesellschaft*. *hier für* (versammelte) *Menge*, auch : *Zuhörer, Zuschauer*. (GWb). *ab|halten*.

5444. *Platz gemacht!* —— 過去分詞による命令法。 = *Habet Platz gemacht!* 道を開け給へ。(森)。祭に参加している人々が、これ以上 *Furcht* と *Hoffnung* に近づかないように *Klugheit* が叫ぶ。(Endres). *ihr* —— 前行の *Gemeinde*.

5441-44. 昔から *Furcht* と *Hoffnung* は人間を駆り立ててきた。飢餓に対する *Furcht* と、獲物や収穫に対する *Hoffnung* が、原始人を狩猟や農業に駆り立てたのである。*Furcht* と *Hoffnung* は人間の根源的な衝動であり、進歩の原動力なのである。

ゲーテ自身は *Hoffnung* を非難することはなかった。 „*Faust*“ では *Hoffnung* が否定的に用いられているのは、性急な呪いの V. 1605 だけで、それ以外はすべて肯定的である : V. 602, 1026, 1199, 2344, 2670, 2690, 5323. *Furcht* は価値判断抜きで用いられている。ただこの二つが非常に大きくなって、この二つだけが統治者を決定する場合のみ、この二つが現実に対して盲目にするので、*Klugheit* の言うことは正しい。ここで表現されている *Klugheit*, *Furcht*, *Hoffnung* の関係は、ゲーテの発明ではない。ゲーテは *Grazzini* の „*Trionfo della Prudenza*“ に次のように書かれているのを見たのである : „*Die Klugheit steht auf einem Triumphwagen. Gefesselt zu ihren Füßen die zwei großen Feinde unsres Lebens die eine Hoffnung, die andre Furcht genannt.*“ (Arens). *Furcht* と *Hoffnung* は目的を意識した活動を妨げる。この二つを鎖につなぐことで、*Klugheit* は *Gemeinde* を没落から救う。(König).

5445f. *den Kolossen* —— *Sg. Akk.* この弱変化の形は *Reim* のため。(Trend.). = *die Riesengestalt* (der *Furcht*). (Fischer). *Koloss* —— *m. riesenhafte bildsäule*,

- riese ; früher schwach, jetzt stark flectiert. (Grimm). Gestalt, Wesen, Erscheinung von ungeheurer, riesenhafter Größe. (GWb). Kriegs-Elefanten. (Schöne). Elefantenkolöß のことで大抵以下のように説明されている。すなわち, die Kraft (Alt, Witkowski, Trunz), rohe Kraft (Beutler, Traumann), die kolossalisch dumpfe Kraft (Bach), die ungeschlachte Massenkraft zum Staat gebändigt (Daur), Kraft und Masse der Gesellschaft (Lohmeyer), die Masse, die der Leitung bedarf (Bratranek), die schwerfällige Masse des Volkes oder der Gesellschaft oder des Staats (Buchwald), die Macht (Reclam), der Staat (Endres) など. (Arens). *seht* — ihr に対する命令法. *turmbeladen* — *P.P. adj.* = mit dem Turm beladen. (er ist) turmbeladen.
- 5447f. *er* — Kolossen. *Schritt vor Schritt* = einen Schritt nach dem andern (Fischer). die „*steilen Pfade*“ — 恐らく国家の前に立ちはだかるさまざまな困難を象徴している。(Endres). 寓意的表現で, Hesiod (um 700 v. Chr.) の „Erga“ V. 290: „Lang und steil der Weg zur Tüchtigkeit“ による。(Gaier).
5449. *Zinne* — Gipfel, Spitze eines Berges od. Gebäudes. (Heyse). V. 5446 の背負っている塔の先端. *auf der Zinne* — upon its tower's top. (Atkins). 行末に *thront* を補う。(Schröer).
- 5450-52. *Göttin* — die Siegesgöttin, Victoria. (Schröer). *Göttin* のあとに, *seht ihr*, を補う。(Thomas). *zum Gewinne Allerseits sich hinzuwenden* — (um) sich zum Gewinne (zum Siegen) Allerseits hinzuwenden. (Schröer). *sich zu et. hinwenden*. ... の方を向く. *hinzuwenden* — 素早くと解釈すべきところ: 'with broad wings quick to turn' etc. (Thomas). ゲーテはここで多方面の活動を, 国家を維持しつつ全般的な繁栄を促進するものとして称えている。(Endres).
5453. *umgibt* — Glanz und Glorie を同意語として単数扱いしていることを示す. *sie* — 4 格. V. 5450 の *Göttin*. 2 行下の *sie* も同じ. *Glorie* — Glanz と同意語. (Heffner). *Strahlenkranz, Gloriole einer himmlischen, göttlichen Gestalt.* (GWb). Glanz und Gloria がふつうの形であるが, 2 行したの *Viktorie* との押韻のため *Glorie* を用いた.
- 5455f. *Viktorie* — V. 5460 では *Viktoria*. おそらく Reim のため. (Endres). *Viktoria* — daneben *viktorie*, in älterer sprache *viktori*. die siegesgöttin. (Grimm).
- 5450-56. ここで表現されているのと同じように, 多数のギリシャの Nike 像 (ローマの小立像や *Viktoria* の石膏像も) の広げた翼を持っている勝利の女神は, Montegna による Cäsar の盛大な凱旋の行列から, ゲーテにはすでに知られていた。そこでは象も登場している。ここでは *Vikorie* は „あらゆる活動の女神“ として, 社会的な宇

宙の勝利者であると宣言されている。Viktorie は成功の生の処方箋である活動を、表現しているからである。(Henckmann).

5457. *ZOILÖ-THERSITES* — Zoilos と Thersites から作られた名前。Zoilos は紀元前4世紀の修辞家 (Rhetor) で、Homer に対する了見の狭い、意地の悪い批評家として悪名高い人物。Thersites はトロイア戦争の英雄たちに対する、醜悪で悪意に満ちた誹謗者である (Ilias II, V. 212–277). (Gaier). この二人は偉大なものを引きずり降ろそうとする、無能な悪意に満ちた人物の代表として有名である。(Witkowski). Zoilos の渾名は „Rednerhund“. vgl. V. 5471: „du Lumpenhund“. (Henckmann).

大多数の解説者は、この古典古代の冒瀆者 Doppelmaske (V.5474: Doppelzwerggestalt) の背後に Mephisto が隠れていると主張している。しかしこのことは Text には書かれていない。それどころか少しあとで Mephisto は、Viergespann (V. 5642ff.) の上に Avaritia の仮面をつけてしゃがんでいる。(Schöne). この点について K. Schröer は次のように述べている: „この仮面の背後には Mephisto が隠れていると推測された。もちろんこの仮面と共に幽霊のような出来事が、宮廷の仮装舞踏会に押し入るように思われる。この姿の背後に Mephisto が隠れていることは、それからこの姿が二つの独立した存在に分裂することとは、全く辻褃が合わない。“ s. zu 5475ff. *hu* — hü; drohend, schmähend. (GWB). *Hu! Hu!* — へ, へ。英訳では: „Ho, ho!, Ugh!, ugh!, Grr, This ist to much!“ など。recht — zu richtiger zeit. (Grimm).

5458. *Ich schelt' euch ... schlecht!* — Ich nenne euch ... schlecht! (Schröer). *all-zusammen* — all zusammen. (Fischer).

5459. *zum Ziele ersehen* — zu einem best Zweck ausersehen, erwählen. (GWB). *ersehen* — infolge von (genauer) Beobachtung (richtig) wählend wahrnehmen. (Fischer). *mir* — 私に (選ぶ)。

5462. *Sie, sie* — 2行上の Viktoria。次行の sie も同じ。wohl — 3行下の Doch との組み合せ。sei — 接続法 I。間接引用文。2行下の Gehör'も同じ。Aar — Adler。17世紀に用いられなくなったが、18世紀の後半に初めて詩的用語として、再び用いられるようになった。(Fischer).

5463f. *wo sie sich nur hingewandt* — wohin sie sich nur gewandt (hat)。どちらでも向きさえしたら。sich hinwenden.

5461–64. 英訳では: „With those white wings she doubtless thinks / That she's an eagle / And that wherever she may choose to look / All peoples and all lands belong to her.“ (Atkins).

5465. *wo* — wenn. *was* — etwas. *Rühmliches* — 形容詞の名詞的用法。

5466. *Es* — 前行。ここは = Bringt es mich sogleich in Harnisch. (Heffner). jdn

- in Harnisch bringen. = wütend machen. (GWb). 人を激怒させる。
- 5467f. *Das Tiefe, das Hohe, Das Schiefe, das G(erade)* — 形容詞の名詞的用法。4格。 *grad* — *gerade*. *schief* のあとに *zu machen* を補う。低級なこと、不正なことを賛美したり、高貴なこと、正しいことを糞味噌にけなしたりすることだけが彼を喜ばせる。これはつまりデマを飛ばすアジテーターの行為である。(König).
- ここは以下の Jesaja 40, 4 を思わせる： „Alle Täler sollen erhöht werden, und alle Berge und Hügel sollen geniedriget werden, und was ungleich ist, soll eben, und was höckericht ist, soll schlicht werden.“ (Schmidt).
5469. *Das* — 上2行を受ける。 *Das ganz allein* — *Ganz das allein*. *gesund* — *zufrieden, glücklich*. (GWb).
5470. *so* — そのように。 *ich's* — es は前行の *Das*. *Erdenrund* — *der Erdkreis, die Welt (in ihrer Erstreckung, Weite)*. (GWb).
- 5471f. *So treffe dich* — *So treffe (ich) dich*. *so* — だから。 *treffen* — *mit Schlag, Stoß oder ähnlicher Bewegung berühren, erreichen*. (Heyne). *frommen Stabes* — *des Stabes, der für das Richtige sorgt, der die Gerechtigkeit und Ordnung repräsentiert*. (Trunz). 秩序をもたらし、秩序を維持する効果のある杖なので、 „fromm“ と言われる。(Arens). 英訳では： „sacred staff“. *Des frommen Stabes Meisterstreich* — *einen Meisterstreich des frommen Stabes*.
- Odysseus もののしる Thersites を王笏で打った (*Ilias II, 265ff.*). 眺めていたギリシャ人たちは、この王笏による一撃を „*Meisterstück*“ と言った。この言葉から恐らく „*Meisterstreich*“ という言葉が出来たのだろう。(Endres). 行末には感嘆符の他に *Komma* のついた版もある。ほぼ 2:1 で前者が多い。
- 5471ff. V. 5504 から分かるように、小びとの *Doppelgestalt* は、*Herold* には最初から怪しい存在だった。ゲーテはこれから始まる本当の魔術を、*Herold* や群集の気分の中で準備することを見事に心得ている。今まで陽気だった雰囲気は、何故だか誰も知らないうちに、不愉快になりはじめる。(Endres).
5473. *Da* — *Und, Dann*. *krümm* — ほぼ 2:1 で *krümm'* の版の方が多い。 *winde* と共に命令法。 *sich krümmen, sich winden*. *dich* は両方にかかる。
- 5474f. 感嘆文。 *die Doppelzerggestalt* — 二人の小びとが合体した姿。 *Witkowski* は顔の仮面を前とうしろにつけている人物とする。 *sich ballen*. 英訳では： „How quickly does the double dwarf / Become a loathsome, shapeless mass ! — “ (Atkins).
5476. *Wunder!* — *als ruf des erstaunens über etwas ungewöhnliches, unerwartetes*. (Grimm). *Klumpen wird zum Ei* — ゲーテは18世紀に好まれた舞台効果を引き継いでいる。 *Harlekin* はしばしば卵の中から出てきた。(Erlor).

5477. *Das* — 指示代名詞。前行の *Ei. sich auf|blähen. entzwei|platzen.*

5478f. *Nun* — *Da.* すると。 *heraus|fallen* — *von drinnen hierher nach draußen fallen, auch iSv hervorquellen.* (GWb). 飛び出てくる。 *Zwillingspaar* — 次行。小びとが杖で打たれて塊になり、その塊の構成要素が双生児として出てくる。嫉妬深い二枚舌を表す *Otter* (まむし) と、光を恐れる偏狭さを表す *Fledermaus* (こうもり) である。この二つで出来ている *Doppelzwerg* は、全体としては *Gemeinheit* を表す。(Schröer). *die Otter* — *aus niedd. adder = hochd. natter.* (Grimm). この *Otter* に因んで G. v. Loeper は Grimm の *Hausotter* を紹介している。 *die Hausotter* — *hausschlange = eine böse frau: (sie ist) nicht die hausmutter, sondern eine hausotter.* (Grimm).

悪口を好む *Zoilo-Thersites* から毒蛇と、光を恐れるこうもりが出てくる。これはまたしても足を引っ張る批評に対するゲーテの嫌悪感を、象徴的に表現するものである。(Henckmann).

5480. *Die eine* — *die Otter. fort|kriechen. Die eine kriecht im Staube fort.*

5481. *Die andre* — *die Fledermaus. schwarz* — *adj.* 黒い姿で。(佐藤)。 *Die andere fliegt schwarz zur Decke.*

5482. *Sie* — *die Otter* と *die Fledermaus.* ここは = *Sie eilen, um sich draußen wieder zu vereinigen.* (Schröer). *der Verein = Vereinigung (Verbindung).* (Fischer).

5483. *Da* — 前行の *draußen.* *Herold* は三番目の仲間になりたくない。(Schröer).

5484ff. *Frisch!* — さあ。(森)。英訳では *Come!* 9人の声のうちダンスに誘う最初の声を除いて、大勢の者は無気味な気持ちに襲われる。ここには幽霊が出そうだという無気味な感情が、頭から足まで広がる。*Tisiphone, Furcht, Zoilo-Thersites* によって、新たな雰囲気準備されていたのである。誰にも何にも起らないけれども、今や *Furcht* が広がる。人々の楽しみをぶち壊すのが、あの „*Bestien*“ (V. 5493), 即ち、まむし、こうもり、こびとの意図だったと人々は認識する。(Arens).

5485. *wollt', wär'* — 接続法 II。婉曲な意志の表現。 *Ich wollt', daß ich davon wär'. ich wär' davon* — *ich ginge davon.*

5486f. *das* — 次行。 *umflechten* — *mhd. umbevehten = (flechtend) einschließen od. umschließen.* (Fischer). *gespenstisches Gezücht* — *unheimliches, erschreckendes Getier, Brut.* (GWb). *Gezücht* — *Brut in herabsetz. Sinne.* (Fischer).

5488. *Saust es mir doch* — 強調による倒置。次行も同じ。 *Saus't* の版もある。 *es* — 前行の *Gezücht (= Fledermaus).* *mir übers Haar* — *über mein Haar.* こうもりが頭上を飛び回る様子。

5489. *es*⁴ *gewahr werden*. ...に気づく。 *es* — Gezücht (= Otter). まむしが足元を這い回る様子。この2行の英訳は: „Something hissed right past my hair. — / I glimpsed something at my feet. —“ (Atkins).

5491. *Alle doch* — Alle (sind) doch.

5493. *die Bestien* — Otter と Fledermaus. (Henckmann).

5494f. *Seit* — Da. (Heffner). in causaler anwendung. (Grimm). 英訳では since. *Heroldspflichten* — Herold にはグループを紹介したり、必要な場合には説明をする役目がある。しかし今やってくるグループの場合はそれが出来ない。届けずにやってくるからである。同様に Herold には秩序に心を配り、邪魔をする者を罰する務めがある。Zoilō-Thersites (V. 5471ff.) の場合も彼は処罰する。—しかし Zoilō-Thersites が変身するときや、幽霊のように近づいてきて、行進の際に場所を必要としないグループがやってくるときは、どうしたらよいだろう? このグループは特に豪華で、中に Faust がいる。(Trunz). この2行は *Seit mir bei Maskeraden Heroldspflichten aufgeladen sind*.

5497f. *Daß* — Damit. *euch* — 4格. jdn erschleichen: sich (verstohlen) in böser Absicht an jdn heranmachen. (GWb). schleichend gelangen zu od. erreichen. (Fischer). *verderblich* — verderben bringend. (Grimm). *erschleiche* — 接続法 I. *Daß* に応じたもの。

5499. *Weder wanke, weder weiche* — Weder wanke noch weiche ich. (Gaier). = seinen Platz unbeweglich behaupten. (Heyse). weder-noch の代りに weder-weder が、18世紀の70年代以後、新しい詩語として用いられた。ゲーテもよく用いた(最初は Urfaust で)。(Grimm). *wanken und weichen* = weggehen. (Grimm). „ich“ の省略は晩年のゲーテの特徴である。(Henckmann).

5501. *Ziehen* — (窓から) 入ってくる。 *luftige Gespenster* — vgl. V. 1118–41. (Gaier). Herold は幽霊や魔術を拒絶することは出来ない。(Endres). *luftig* — von geisterhaften wesen, die sowol in der luft schweben, als selbst luftähnlich sind. (Grimm). in der Luft befindlich. (Fischer).

5503. *Wißt'* — 接続法 II. 丁寧な表現. zu tun wissen.

5504. = Wenn sich (auch) der Zwerg verdächtig machte. 小びとも怪しい奴だったが。(佐藤). *sich verdächtig machen*. 人に疑われる。今度やってくるパレードは、小びとよりもなお理解しがたい。四頭立ての象に引かれた豪華な車が、群集を掻き分けることもなく近づいてくる。象は肉体を持たないように見える。それで普段は激しくぶつかる部屋の中の色々な物は、障害にならない。(Trend.). 小びとは幽霊のように思われたけれども、今度は四頭立ての龍に引かれた車が、押し寄せてくる群集のただ中に現れるという、新たな理解しがたいことに私は直面する。宝の番人

- である龍は、富の神 Plutus に変装した Faust が乗っている車を引くのに相応しい動物である。Plutus には Hanswurst に変装した Mephisto が付いている。(König).
5505. *Nun!* — ほら! *es* — 一般的な状況や雰囲気を表す。あの奥のほうからも又どやどや遣つて来ますね。(森)。 *es* — 何かが。
- 5506f. *der Gestalten* — 前行の威勢よくやってくる人人。 *amtsgemäß* — 職務上、役目から。 *entfalten* — erklären. (Fischer).
5508. 行末に *ist* を補う。
5509. *Wüßt'* — V. 5503 の *Wüßt'* と同じ。 *ich auch* — 私でも、私だって。 Herold は今やってくる仮装した人人を説明したいと思う。しかしそれが出来ないのは、彼らを知らないからである。にも拘らず Herold は彼らの入場を拒否することはしない。彼らと共に入場してくる魔法が、Herold が拒否するのを明らかに妨げるからである。(Endres).
5510. *Helf(e)t* — *ihr* に対する命令法。 *alle* — *ihr alle*. *mich belehren!* — und *belehret mich!* 英訳は: All of you must help me out! (Greenberg).
5511. *ihr's* — *ihr es*. *es* — あれ。 *schweifen* の主語。次行の *ein prächtiger Wagen*.
- 5512f. *Vierbespannt ein prächtiger Wagen* — Ein prächtiger Wagen vierbespannt. *vierbespannt* — mit vier pferden bespannt. (Grimm). *alles* — die Menge. (GWb). *durchtragen* — hindurchtragen. (SWb). 受動。大勢の人人の間を運ばれる。
- 5514f. *er* — 2行上の *ein prächtiger Wagen*. 霊の車は場所を必要としないので、混雑を引き起こすことなく、群集の真ん中を走ることが出来る。(Endres).
5516. *glitzert's* — *glitzert es*. *es* — 何か (がきらめいている)。
5517. *bunte Sterne* — glitzernde Edelsteine an dem Wagen. (König). 英訳では *stars*. *Sterne* のあとに *Komma* のついた版が少しある。
5518. 行末に *beleuchtet* を補う。 *magische Laterne* — die Laterne magica: einfacher Projektionsapparat für Lichtbilder. 幻灯機。(GWb). V. 5511-15 の Herold の話は、これらの魔法を極めて正確に表現して説明している。彼は幻灯機という伝達の手段を持ち出しているが、この幻灯機で Faust と Mephisto が、„Rittersaal“ で Helena と Paris の幻を映し出すことになるだろう。(Schöne). 行末の *Komma* の代りに *Schöne* は *Punkt* とする。
5519. *schnaubt heran* — Schnaubt er (= der Wagen) heran. (Loeper). これが多数。Schröer と Schöne の二人は *Schnaubt's heran* としている。この *es* は3行上の *es* と同じ „何か“。 *Schnaubt heran* は馬について言われたもの。(Arens). *heran|schnauben*. *Sturmgewalt* — Geistes Gewalt とする原稿もある。これは

魔法によって引き起こされた現象であることを、より一層明らかに表している。(Schöne). 行末の Punkt の代りに, Schöne と Henckmann は感嘆符にしている。
5520. *Platz gemacht!* — 過去分詞による命令法。どいた!ここで Herold は車が危険なほど、本当に近づいてくるという錯覚に屈する。(Arens). *es* — 非人称。
Halt! — 停止を要求する軍隊式の命令。止まれ!(Grimm). E. Trunz は Knabe Wagenlenker の前に、詩行の 5520 を付けているが、*Platz gemacht!* の行に 5520 を付けている版の方が多い。Knabe という言葉によくあるように、ここでも Jüngling の意。(Trunz).

Knabe Wagenlenker — Eckermann はこれについてゲーテとの対話 (den 20. Dez. 1829) の中で、次のように報告している:それから私たちは Knabe Lenker について話をした。「プルートウスの仮面の中に Faust が、強欲の仮面の中には Mephisto が隠れているということ、君は気づいただろう。だが Knabe Lenker とは誰なのかね?」私はためらい返事が出来なかった。「Euphorion だよ!」とゲーテは言った。「でもどうしてこの謝肉祭の場に登場できるのでしょうか、Euphorion は第三幕でようやく生まれるのに?」と私は尋ねた。「Euphorion は人間ではなくて、寓意的な存在なんだ。どんな時間にも、どんな人間にも束縛されない詩情が、彼の中に擬人化されている。あとで好んで Euphorion になった同じ精神が、今 Knabe Lenker として姿を現しているのだ。この点で彼はどこにでも顔を出したり、いつ何どきでも出現出来る幽霊に似ている」とゲーテは答えた。原稿では実際 Euphorion は、あとになってようやく „Knabe Lenker“ に書き替えられている。(Buchwald).

5521. *Rosse* — Pl. 馬。Pegasus を思わせる車を引く四頭は、ここでは Flügelrosse と呼ばれている。V. 5673 では Drachen と呼ばれている。vgl. V. 5512-20. (Schröer).
hemmet — 命令法。Rosse に対する要求。*hemmen* — zum Stillstand bringen. (GWb). 英訳では: „Horses, halt! No longer use your wings.“ (Atkins).

5522. *den gewohnten Zügel* — d.h. euren Meister, der euch immer lenkt. (Arens).

5523. *Meistert* — Rosse に対する要求。次行の Rauschet hin も同じ。*meistern* — beherrschen. (Fischer). ここは = Zügelt euch wie ich euch. (Arens).

5524. *hinrauschen* — poet. für: sich rasch dahinbewegen. (GWb). *begeistern* — (jdn) in einen erhöhten, erregten Gemütszustand versetzen. 励ます。(GWb). この詩行のあとで車は止まる。(Düntzer). ここは = Brauset dahin, wenn ich mit meiner Begeisterung euch begeistere! これはミューズの乗る天馬 (= Pegasus) との関係にぴったり一致する。(Arens).

5521-24. この馬には翼があるので、Hippogryphe (Greifの頭と翼を持つ馬) か、でなければミューズの乗る四頭の天馬 Pegasus である。翼のある馬は太古に流布されて

いたイメージで、ギリシャ神話では Pegasus は、Perseus から首を刎ねられた Medusa —見る人を石に変える怪物— の血から生まれた。その Pegasus の蹄のあとから、Helikon 山にミューズの泉 Hippokrene が湧き出したと言われる。芸術の世界に対するこの関係は、Pegasus を詩人の馬と見なすことになる。…大地に結びつかず、空に飛び上がることが出来る翼のある馬は、そういうわけで騎手が意のままに出来る詩人の力、詩人の空想の権化である。こうしたことを考えると、この場で移り変わる馬の外観は理解出来る。即ち、そうした外観は詩人の意欲や感情の表現であり、従順さから危険な脅迫まで、優しさから荒々しさまで変ることが出来る。無害な馬から、理解出来ない人には、木や紙で出来た模造品のように見える、火を吐く龍へと変ることも出来る。(Arens).

5525. *diese Räume* — den Kaiserpalast. (Reclam). *laßt* — ihr に対する命令法。
Let us honor this great palace! (Greenberg).

5526f. *Schaut umher* — Herold に対する命令法。wie 以下次行末までが補足語。
umher|schauen. *sie* — 次行の die Bewunderer. ここは = Schaut umher, wie sich Die Bewunderer Kreis um Kreis mehren. *Kreis um Kreis* — für die spiralähnlich-konzentrische Bewegung. (GWb). Knabe Wagenlenker は、自分に対する感嘆だけが彼ら (Bewunderer) を駆り立てている、と信じて疑わない。(Arens).

5528. *auf!* — さあ! im Sinne von beginne. やりなさい。(Düntzer).

5530. *uns zu schildern, uns zu nennen* — 要求を表す zu 不定詞句。

5531. *Allegorie* — von griech. allēgoreō, „ich spreche etwas anders aus“; bildlich bezeichnen. ある考えの具体化、イデーの具体的な表現、大抵人間の形で表現。18世紀には Allegorie と Symbolik は、まだはっきりと区別されてはいなかった。ゲーテ自身区別しようと何度か試みた。(Reclam)。前のグループの Furcht, Hoffnung, Klugheitのように、擬人化された抽象概念。(Gaier)。 (GWb) は „M. u. R.“ から以下の文を引用している: „Es ist ein großer Unterschied, ob der Dichter zum Allgemeinen das Besondere sucht, oder im Besondern das Allgemeine schaut. Aus jener Art entsteht Allegorie, wo das Besondere nur als Beispiel, als Exempel des Allgemeinen gilt; die letztere aber ist eigentlich die Natur der Poesie; sie spricht ein Besonderes aus, ohne ans Allgemeine zu denken, oder darauf hinzuweisen.“ (279). „Die Allegorie verwandelt die Erscheinung in einen Begriffe, den Begriff in ein Bild, doch so daß der Begriff im Bilde immer noch begrenzt und vollständig zu halten und zu haben und an demselben auszusprechen sei.“ (1112). „Die Symbolik verwandelt die Erscheinung in Idee, die Idee in ein Bild und so daß die Idee im Bild immer unendlich wirksam und unerreichbar bleibt.“ (1113).

ゲーテはアレゴリーよりも象徴を優位においた。アレゴリーは現象を概念に、概念を比喩に変えるが、その比喩は概念に限定されてしまうのに対して、象徴は現象を理念に、理念を比喩に変えるが、その際理念は比喩として無限に活動し続けるからである。(哲学・思想事典・岩波版)。

5532. *so* — そのように. *solltest du* — 接続法 II. 丁寧な表現。べきでしょう。
kennen — erkennen だろうか。(Schöne). それで私たちの正体もおわかりでしょう。(高橋)。
- 5533f. *Wüßte* — (Ich) wüßte. 次行の *könnst* と共に接続法 II. 丁寧な表現. *et. zu tun wissen.* = *et. tun können.* *beschreiben* — eine Person charakterisieren. (GWB). V. 5494–5536 は 4 hebig の trochäisch で大抵は Paarreim である。(Ciupke). しかしこの *beschreiben* は *die Waise* である。Knabe Lenker は期待していた返事を受取る。(Arens).
5535. *probier's!* — probiere es! *probiere* — du に対する命令法. *es* は前行のこと. *Man* — Ich.
- 5537f. Knabe Lenker の外観は、ギリシャ神話の Eros を思わせる。Eros も少年と青年の境界にいる。(Trendl). *Sie* — die Frauen. *möchten* — 接続法 II. 控えめな表現. = *würden.* *ausgewachsen* — erwachsen. (GWB). ここは *Die Frauen würden gern dich schon erwachsen sehen.* *Der Herold sieht den Knaben Lenker also von vornherein in Bezug zu Frauen.* (Arens).
- 5539f. *Sponsierer* — vgl. V.5187. (Schröer). *recht so* — かなり. *von Haus aus* — dem Wesen nach. (GWB). 生れつき. ... ein Verführer (zu sein). この 2 行の英訳は: „You are a future lady's man, I'd say, / A born seducer anyway.“ (Luke). „A future Don Juan, I don't doubt, / I feel sure a born heartbreaker.“ (Greenberg).
- 5541f. *Das läßt sich hören!* — それはよい話だ! それは素敵だ! *fahre fort* — 次行の *Erfinde* と共に du に対する命令法. *fort|fahren.* 英訳ではここは All well and good! Go on like that. (Atkins). *erfinden* — 古い意味では entdecken. (Grimm). verstärktes finden, nam. als Ergebnis einer Forschung finden. (SWB). ausfindig machen. (Fischer). *dir* — 念を押す 3 格. *des Rätsels heitres Wort* — das heitre Wort des Rätsels = die heitere Auflösung des Rätsels. (Witkowski). *heiter* — erfreulich. (Arens). deutlich, klar, verständlich, faßlich. (GWB). ゲーテの好んだ言葉. vgl. v. 5067, 5071, 5093, 5044 (erheitern). (Arens). Knabe Lenker は Herold に謎, つまりアレゴリーを明らかにするように要求する。(Arens). この *das heitre Lösungswort* は, 車の主人が Plutus であることが明らかにされるまで, 隠されたままである (V. 5537–71). (Henckmann).

5543f. *Der Augen schwarzer Blitz* — schwarzer Blitz der Augen. *Blitz* — im Vers für den durchdringenden od lebhaft-feurigen Blick. (GWB). *die Nacht* — übertragen auf die tiefschwarze farbe, besonders der haare. (Grimm). *Erheitert* — (Ist) erheitert. *erheitern* (neueres Wort) — heller od. lichter machen. (Fischer). *juwelen* — mit Edelsteinen besetzt. (GWB). この2行の英訳は : „I see black lightning in your eyes, and night-dark hair / Enlivened by a ribbon set with jewels.“ (Atkins).

5545-47. 感嘆文. *Gewand* — 弦楽器で伴奏しながら歌う, 古代ギリシャの歌手が着ていたような衣裳. (Reclam). 文芸の神アポロも足まで届く長い衣裳を着ている. (Trend.). *dir* — 所有の3格. *Socken* — 古典古代の喜劇役者の靴. vgl. V. 18 08. (Trunz). *Glitzerstand* — geringwertiger gleißender Schmuck. (Fischer). 英訳では glittering baubles, sparking tinsel など. V. 5547 は2行上の *Gewand* の付加語.

5548. *könnte* — 接続法 II. 可能性. かも知れない. *schelten* — これは二つの4格を取る *schelten*. (Grimm).

5549f. *würdest* — 接続法 II. 推測. だろう. *zu Wohl und Weh* — for better or for worse. (Atkins). für alle Fälle. (Schröer). *bei Mädchen gelten* — den Mädchen gefallen. (Endres).

5551. *Sie* — Mädchen. *lehrten* — 接続法 II. 婉曲な表現. *das ABC* — das A. B. C. の版もある. *das ABC (der Liebe)*. (Alt). *das ABC der Liebe* はすでに15世紀の謝肉祭劇で演じられていた. (Loeper). ここは = *Sie würden dich das ABC lehren*.

5552f. *Knabe Lenker* は *Faust* が扮装している *Plutus* (V. 5569) を指して言う. (Endres). *dieser; der* — 指示代名詞と関係代名詞. = Und (wer ist) *dieser* (Mann), *der*. *Prachtgebilde* — *Prachtgestalt*. *auf dem Wagenthron* — *der einem throne ähnelnde wagenstuhl*. (Grimm). 馬車には男性の美の理想である *Prachtgebilde*, 即ち, *Faust* が隠れている富の神 *Plutus* がきらびやかに坐している. V. 5520 の注参照. (Schröer).

5554. *Er* — 2行上の *dieser*. ここは = *Er scheint ein reicher und milder König zu sein*. *milde* — freigebig, gnädig, sanft. (Heyne). wohlthätig, mildthätig. (Heyse). ここでは気前よく施しをするという古い意味. *mhd.* ではこれは諸侯や領主の身分に応じた義務だった. (Grimm).

5555. *Wohl dem, der ... !* — ... する人は幸せだ! *seine* — *König* の所有代名詞. 2行下と3行下の *sein* も同じ.

5556. *Er* — *König* とする意見と, *der seine Gunst erlangt* とする意見 (Schöne) が

- ある。 *erstreben* — etw zu erreichen suchen. (GWb). zu *erstreben* は nichts にかかる。次行以下は再び *Plutus* に向けられる。(Schöne).
5557. *Wo's irgend fehlte* — どこか不足している所はないか。 *Irgendwo es fehlte* — 接続法 II. es は非人称。 *spähen* — scharf und forschend ausblicken, kundschaften. (Grimm). genau und scharf sehen, prüfend schauen. (Heyse).
- 5558f. = Die Freude am Geben ist für ihn größer als Besitz und Glück. (Schöne). *Besitz und Glück* — hendiadys. = Besitzes-Glück. (Heffner).
5560. *Hiebei* — Hierbei = diesbezüglich, die soeben erwähnte Angelegenheit betreffend, in diesem Zusammenhang. (GWb). with these remarks. (Atkins). *stehen bleiben* — やめる。英訳は: „Don't stop there.“ (Greenberg).
5561. *recht* — ganz, sehr. (Fischer). *beschreiben* — schildern. (Fischer).
5562. ここは = Das Würdige läßt sich nicht schildern. (Fischer). *sich schildern* — 他動詞の再帰化による自然的可能性。(橋本)。
5563. *Mondgesicht* — gesicht rund wie ein voller mond. (Grimm). vollrundes, glänzendes Gesicht; mit launigem Beigeschmack. (Fischer). 今日のようにふざけた、見下すような意味はない。(Reclam). Josef v. Hammer はその Hafis の翻訳の中で、 *Mondgesicht* という語をしばしば利用している。ペルシャ語ではこの語には称賛するような響きがある。ゲーテはその „*Divan*“ の詩の一つ (Nachklang) で、この語を借用している。(Trunz).
5564. *erblühen* — *intr.* voll aufblühen. (Fischer). metaphor *iSv* zu voller Entfaltung, Schönheit gelangen. (GWb).
5565. *Die* — 指示代名詞。前2行を指す。ここは = Die prangen unterm Schmuck des Turbans. *Turban* — 頭に被る長い布で、東洋の伝説上の富裕な王侯のしるし。(Reclam).
5566. = Welch ein reiches Behagen im Faltenkleid ist das! *Behagen* — zufriedenheit, freude, frohes gefühl. (Grimm).
5568. ここは = Es scheint mir, daß er (= der König) als Herrscher bekannt ist.
- 5569f. *Plutus* — *lat.* で Reichtum, Wohlstand の意味。すでに古典古代には擬人化されていた。(Trunz). *des Reichtums Gott genannt* — der Gott des Reichtums genannt. *Derselbe* — *Plutus.* daher|kommen. *in Prunk* — in regal state. (Atkins).
5571. *hohe* — < hoch. erhaben, edel. (GWb). *ihn* — *Plutus.* 今まで宮廷に登場していなかった *Faust* が、初めて富の神として登場する。*Faust* は皇帝と宮廷にお金がないとき、一番よく自分を売り込まねばならない、と *Mephisto* は考えている。*Faust* は彼自身の高尚な考えでは、与えるときに一番楽しい気持ちになる。あ

らゆる高貴な金持ちの人間のように、詩人自身のように一。(Schröer).

5572. *Sag* — Knabe Lenker に対する命令法。 *das Was und Wie* — wer du bist? の意。ゲーテはこれを芸術鑑賞の際に用いているが、ここでは形式的に用いている。vgl. „M. u. R.“ 505: „Das Was des Kunstwerks interessiert die Menschen mehr als das Wie: jenes können sie einzeln ergreifen, dieses im Ganzen nicht fassen.“ vgl. auch zu V. 6992: „Das Was bedenke, mehr bedenke Wie.“ (Schröer).

英訳では: „But tell us, also, what you are and do!“ (Atkins). „And you, tell me who you might be?“ (Greenberg). „But tell us now your own identity.“ (Luke).

5573. *Bin* — (Ich) bin. 次行の *Bin* も同じ。 *Verschwendung* — in gutem Sinne. (Fischer).

5573ff. V. 5520 の解説も参考になる。 *Poesie* (Kunst) を *Verschwendung* というその表現が正しいことが、以下で説明されている。なぜなら芸術家はその豊かな能力を、代りに何か受取ることなど顧慮することなしに、人人に与えることによって、自分自身を完成するからである。V. 5575 には二重の意味が含まれている。 *Poesie* は無限に豊かである。それは人人に無限の多くのものを与えることが出来るからである。しかし *Poesie* は想像力でも無制限なので、それ自身においても豊かである。物質的な富だけでは、精神的な生産力が欠けているので、すべてを創造することはできない。(Endres). 換言すれば *Poesie* は自分自身が目的である。(Loeper).

5574f. *der Poet, der* — 先行詞と関係代名詞。 *er* — 前行の *Poet*. *sein eigenst(es) Gut* — 自分の最善の能力、心の最も奥深い本質を、作品の中で表現すること。(König). *verschwenden* — reichlich aus- od. hingeben. (Fischer). この *Wenn-Satz* は前行にかかる。

5576f. *Auch ich bin* — Ich bin auch. (高橋). *unermesslich reich* — 詩人の計り知れない豊かさというのは、物質的な豊かさではなくて、精神の豊かさのことである。(Reclam). *Poesie* の豊かさというのは、着想、願望、イメージ、価値付与などが豊かであるということで、詩人はこうしたものを持っているので、他の人人に分け与えることが出来る。(Gaier). *gleich* — *Präp.* gleich dem Plutus.

5578f. *Beleb' und schmück'* — (Ich) belebe und schmücke. *beleben* — lebendiger (lebhafter) machen. (GWb). *ihm* — Plutus. 彼に(してやる)。次行の *ihm* も同じ。 *aus|teilen*. 富それ自体は詩がなければ味気ない、ありのままのものである。詩はまさに精神が満足を見出さないときに登場する。(Schröer). *Das, was ihm fehlt* — Schönheit und Frohsinn. (König). die geistigen Gaben der Kunst. (Düntzer).

詩は富のお祭り騒ぎに生命と美を与える。これはつまり富が与えることが出来る

物質的な快適さに、精神的な賞賛をつけ加えることである。——ゲーテの時代には多くの詩人たちは、生活のために君主の保護に頼っていた、ということをおぼえておく必要がある。(Heffner). ゲーテも必要に迫られて君主や宮廷のために、*Gelegenheitsgedichte* を沢山書かねばならなかった。(Arens). vgl. zu V. 5625–27. (Henckmann).

5580. *Prahlén* — *Selbstlob*. (Henckmann). jm. stehen. 人に似つかわしい。 *gar zu schön* — とてもよく。この *Knabe Lenker* の話を皮肉に取ってはならない。 *Herold* は誇り高い、高慢な *Knabe Lenker* に心から満足している。(Schröer). *Herold* は *Knabe Lenker* の話を完全には理解していない。なぜなら物質的な意味でしか理解していないので。(Endres). 英訳ではここは : „You brag quite gracefully.“ (Atkins).

5581. *laß* — *Knabe Lenker* に対する命令法。英訳では : „But let us also see your art.“ (Luke).

5582ff *Hier* — ほら。 *seht* — *Herold* に対する命令法。 *nur* — (指を鳴らすのを) するだけで。 *ein Schnippchen schlagen* — 文字通りには中指と親指で、ぱちっとはじくこと。 „einen Streich spielen“ (からかう) の庶民的な表現。(Endres). = *Seht mich, der ich ein Schnippchen schlage!* (高橋)。

今や象徴的な事柄が *Mephisto* の魔法と混ざり合う。 *Poesie* は確かに黄金や財宝の物語を本当だと思うように、想像力を刺激することは出来るけれども、その創造の中で物質的な結論が引き出されるや否や、すべては消え失せる。(Endres).

5583. *glänzt's, glitzert's* — es は非人称。 *Poesie* はただ望みさえすれば、この世のあらゆる財宝を、魔法で生み出すことが出来る。(Schröer).

5584. hervor|springen. *Perlenschnur* — 真珠をつないだ紐。

5585. *Nehmt* — 周囲の大勢の人人 (V. 5590) に対する要求。 *Spange* — von jeder art metallschmuckes, ohne besonderen hinweis auf seine bestimmung. (Grimm).
ここでは金の首飾りと耳飾り。

5587. *In Ringen köstlichstes Juwel* — Köstlichstes Juwel in Ringen. *Ring* — 指輪。

5588. *Flämmchen* — インスピレーションの火花。 vgl. V. 5630–39. (Heffner). 詩的靈感の象徴。新約聖書の Feuerzungen による。 *Apostelgeschichte des Lukas*, Kap. 2, V. 3f. : „Und es erschienen ihnen Zungen zerteilt, wie von Feuer ; und es setzte sich auf einen jeglichen unter ihnen.“ (Erler). *spenden* — austeilen. (Fischer). *dann und wann* — ときどき。

5589. *wo es zünden kann* — どこかで燃えあがる。(小西)。 *es* — 非人称。 *zünden* — ohne object. allgemein von dem, was feuer verursacht. (Grimm).

5590. 感嘆文。 *die liebe Menge* — 嘲笑的な意味を伴う。(Endres). *lieb* には *die liebe gewohnheit* のように *ironisch* な意味がある。(Grimm). *hoi polloi*. (Heffner). *haschen* — jdn, etw mit großer Geschwindigkeit u (mit den Händen, Armen) ergreifen. (GWb).
5591. *ins Gedränge kommen*. もみくちゃになる。(高橋)。
- 5592 *er* — 前行の Geber. *wie ein Traum* — wie im Traum, im Schlaf. (Düntzer). ここはかなり省略された文で意味するところは : „彼は宝石を指ではじき出す (自分の回りに), 夢の中のように (人人は宝石だけを見ている)“ (Heffner).
5593. = *Und alles hascht (die Kleinode) im weiten Raum*. *Und* — すると。 *alles* — the whole crowd. (Atkins).
5594. *Doch* — だが。 *da* — そこで。 *neue Pfiffe* — neue Tricks. (Gaier). *Pfiff* — Kniff, Kunstgriff. (Fischer). 英訳では : „But now I see there are new tricks.“ (Atkins).
5595. *Was einer noch so emsig griffe* — No matter what one may have seized. (Heffner). *noch so* — たとえどんなに。 *griffe* — 接続法 II の形で古いドイツ語の過去。他の解釈では認容と韻律のために用いられた *griffe* を, 接続法 I の *greife* と同等と見なす。(Heffner).
5596. *Des* — Des(sen). *was* の 2 格。 = *wessen*. *Dafür* (その代りに), *Davon*. (Heffner). *er* — 前行の *einer*. これは本当のむだ骨折りだ。(佐藤)。手を伸ばしてせっせと掴んでも, 無駄骨折りになる。詩的な空想の産物は, 夢と同じく掴まえられない。(Trendl).
5597. *Die Gabe flattert ihm davon* — *Poesie* をどう扱ったらよいか分からない, 愚鈍な宮廷社会に対する辛辣な当てこすり。(Erler). *die Gabe* — *die Poesie*. (GWb). *ihm* — 前行の *er*. 彼から。 *davon|falttern*. = *entschlüpfen*, *entweichen*. (GWb).
- 5598 *Es* — 形式上の主語。 *das Perlenband* が真の主語。 *sich auflösen*. ほどける。以下の事の成り行きは, 悪魔の贈物はあらゆる無価値な物に, 或いは昆虫や小さな動物に変わるという民間信仰に依っている。(Endres).
5599. *Ihm ... in der Hand* — *In seiner Hand*.
5600. *sie* — 前行の *Käfer*. 次行の *sie* も同じ。 *Er* — 後半の *der arme Tropf*. *Tropf* — *einfältiger mensch*, *ein dummkopf*. (Grimm).
5601. *umsommen* — *untrb.* um — herum *summen*, von *insecten*. (Grimm). *ihm den Kopf* — *seinen Kopf*.
- 5604f. *Wie doch* — のに, けれども。 *der Schelm* — *Knabe Lenker*. *gleißen* — *glänzen*, *leuchten*. (GWb). *gleißt* にアクセントを置く。(Witkowski). *was golden*

gleißt — 心をそそる金の外見上の特徴についてと同時に、*Poesie* についての比喩的な表現でもある。(GWb). 一切は *Scheingold* にすぎない。なぜなら *Dichtkunst* は専ら *Schein* と係わりがあるので。(König). 英訳では: „For all his promises, the rogue/Bestows als gold what merely glitters.“ (Atkins).

5606. *Zwar* — 次行の *Allein* と対応。(Reclam). *Masken* — *verkünden* の補足語。 *verkünden* — *kundthun*, *botschaft bringen*. (Grimm). *zu tun wissen*.

5607f. *der Schale Wesen* — *das Wesen der Schale*. 殻の中身。(秦). *Schale* — *um blosze äuszere hülle oder äuszerlichkeit, oft auch schein und unwahrheit zu bezeichnen*. (Grimm). *Herold* は *Schale*, すなわち、ほとんど価値があるようには思われない外観だけを見て、内面の核心、つまり芸術美の本質を認識することはない。外観を見て楽しむ大衆と同じである。(König).

ergründen — *bis auf den Grund druchdringen od. erforschen*. (Fischer). この *zu* 不定詞句が *Sind* の主語。 *Sind* と *Pl* なのは、述語の *Hofgeschäfte* が *Pl* のため。(Heffner). 宮廷の仕事はゲーテが経験から知っていたように、深い考えには合わない。宮廷は楽しみを求め、緊張することは望まない。(Trend.).

5609. *Das* — 指示代名詞で主語。 V. 5607 を指す。 *schärferes Gesicht* — *besseren Durchblick*. (Gaier). もっと鋭い眼力。 *Gesicht* — *als Wahrnehmungsorgan*. (GWb).

5610. *sich vor et.³ hüten*. *Fehde* — *Streit, Auseinandersetzung*. (Schöne).

5611. *an jn. Frag' und Rede wenden*. 人に尋ねる。 *Rede* は不要だが、 *Fehde* との *Reim* のため付け加えたもの。 *Gebieten* — *Herrscher, Befehlshaber*. (Heyse). 王様の訳が多い。 *Knabe Lenker* は *Plutus* に対して謙って、 „*Gebieten*“ と話しかけるが、 V. 5577, -79 では大胆にも自分を同列に置いている。(Arens). この2行の英訳は: „But I have no desire for disputes, / And will address, my lord, to you my questions.“ (Atkins)..

5612f. *Knabe Lenker* はこれから五つの雄弁な疑問文で、自分の功績を強調する。彼は馬場で勝利を収めた主人の御者に、自分を喩えて得意になる。(Arens). *Windsbraut* — *eine dem tobenden Winde vergleichbare Schnelligkeit*. (Fischer). vgl. V. 3936. (Thomas). 現在完了。ピンダロス (*Pindarus* 522 od. 518-446 v. Chr.) のメタファーに倣って、全ギリシャの競技の戦車競争からとられたもので、 *Plutus* が勝利を収めた „*Viergespann*“ は詩の乗り物になる。(Henckmann). *Gebieten* が *Knabe Lenker* に、疾風のような四頭立ての竜車を任せるとするのは、彼に自分を委ねるとのこと。(Arens). この2行の英訳は: „Didn't you confide to me the task/Of managing your whirlwind chariot?“ (Greenberg).

5614. *Lenken* と *leiten* はここでは区別されている。 *lenken* は手綱を操って方向を決

める。leiten は方向を命令する。(Schröer). *leitest* — befiehlst. (König). Gebieter が方向と目的を決める。Knabe Lenker は巧みに操縦してそれを為し遂げる。(Arens). *glücklich* — erfolgreich. (Grimm). skillfully. (Greenberg). お指図どおり、上手に御しはしませんでしたか? (佐藤)。

5615. Gebieter が課題を出し、詩人の Knabe Lenker がそれを見事に果たすということ。(Arens)。

5616f. *auf kühnen Schwingen* — 大胆に飛んで。 *die Palme* — 棕櫚。 V. 5620 の Lorbeer (月桂冠) と共に勝利の名誉のしるし。(Schöne). zu tun wissen.

5618. ここは形式上は感嘆文。 ... *gefochten (habe)*. 現在完了。

5619. *jm. glücken. es* — 前行の内容を指す。現在完了。

5620f. *Lorbeer* — 古代においては勝鬨をあげて現れる、軍司令官や諸侯たちの飾りだった。16, 17世紀になると、諸侯たちは月桂冠を被らなかつた。しかし詩人や画家や銅版画家たちは、月桂冠で彼らを表現した。それによって諸侯は誉め称えられたのである。(Trunz). *ihn* — *Lorbeer*. 称賛 (*Lorbeer*) の機能について言えば、詩は生の価値を高め、生に意味を付与する。(Henckmann). *mit Sinn und Hand* — 芸術家の詩作と創造が、初めて富に名誉と品格を与える。(König). 英訳では *by my thoughtful hand, mind and hands, brain and hand* など。

5616–21. V. 5616–17 と V. 5618–19 は同じことを言っている。詩人を称える歌と、一般に他人に対して Gebieter を誉め称える詩とは、常に Gebieter を助けて勝利をもたらし、名声を高めた。なぜなら Gebieter がどんなに強大でも、自ら自分を言葉で称えたり、月桂冠で自分を飾ることは出来ないからである。Gebieter に月桂冠が与えられるなら、それは全く詩人の仕事なのである。このことはまたしても、 „Vorspiel“ の „Dichter“ の言葉を思い出させる。その純粋な詩を称える歌 (V. 154–57) は次の言葉で終る：

Wer flicht die unbedeutend grünen Blätter

Zum Ehrenkranz Verdiensten jeder Art?

Wer sichert den Olymp? vereinet Götter?

Des Menschen Kraft, im Dichter offenbart.

Bayard Taylor は Plutus と Knabe Lenker の中に、富と詩のアレゴリーを見ているだけでなく、Carl August とゲーテとの関係の反映も見ている。(Arens)。

5622f. *es* — 後半の *daß* 文。 *Bist* — (Du) bist. *Geist von meinem Geiste* — Eva の創造の際の Adam の言葉： „Das ist doch Bein von meinem Bein und Fleisch von meinem Fleisch.“ (1. Mose 2, 23) による。(Gaier). *Geist* — 精神的な人間。個性の権化として強調されたもの。(GWb). 英訳では： „I gladly say, you are the essence of my spirit.“ (Atkins). „... you are spirit of my spirit.“ (Luke).

5625-27. *Bist* — (Du) bist. *deinen Dienst zu lohnen* — (um) deinen Dienst zu lohnen. *Den grünen Zweig* — 功績があり榮譽を授けられた詩人のしるしとしての月桂樹の枝。(Erler). 富が与えた権力の象徴である王冠よりも、Plutus が高く評価する月桂冠のこと。(Endres). Plutus は結局 Lenker を自分よりも高く評価する。富としての Plutus が人生の実現であるなら、Lenker は空想の精神的な実現である。(Henckmann). 芸術は生活の豊かさを前提とすると同時に、その豊かさを称える。(Reclam). *vor allen meinen Kronen* — than all my crowns. (Greenberg).

5929. *Mein lieber Sohn, an dir hab' ich Gefallen* — Jesus が洗礼を受けたとき、天から聞こえてきた声: „Du bist mein lieber Sohn, an dem (welchem) ich Wohlgefallen habe.“ がここでも聞こえてくる。これによって Plutus の話は、ふざけているような、勿体振った調子を帯びる。(Schröer). 新約聖書 Lukas, Kap. 3, 22; Markus, Kap. 1, 11; Matthäus, Kap. 3, 17 による。ここは前行の „Ein wahres Wort verkünd' ich allen.“ によって、さらに強調されている。(Arens). 富と詩の関係は、父なる神と息子との関係に似ている。(Gaier). *an jm. Gefallen haben*. ある人を気に入る。

5630f. *Die größten Gaben* — Poesie. (Henckmann). *Seht* — Menge に対する命令法。現在完了。

5632f. *dem und jenem* — 指示代名詞 *der* (この人), *jener* (あの人) の3格。vgl. V. 5362. *Flämmchen, das* — 先行詞と関係代名詞。 *ansprühen* — (Flammen) zum Sprühen bringen, entzünden. (GWB). *anfachen*. (Grimm). *angespührt (habe)*.

5632-39. 使徒行伝 Kap. 2, V. 3 の聖霊降臨の奇蹟(炎のような舌)のパロディー。(Gaier). ここは Poesie の聖霊降臨の描写。(Schöne). 芸術によって人間に与えられる、感動的なイデーの美しいイメージ。しかしところどころで受け入れられるだけで、それ以外はすぐ消えてしまう。(Endres). vgl. V. 5588. (Schröer).

5634. *Von einem zu dem andern* — Von einem (Kopf) zu dem andern (Kopf). この Kopf を Mann とする訳もある。 *es* — das Flämmchen. 次行の二つの *es* も同じ。

5635. *sich an et.³ halten*. = unverrückt dabeibleiben. (Fischer). *diesem* — diesem (Kopf). *dem* — dem (Kopf). この2行の英訳は: „It (a spark) skips along from head to head, / Pausing on some, but not at all on others.“ (Atkins).

5636. *es* — das Flämmchen. *flammt's empor* — 明るく燃える詩の炎になること。(König). *empor|flammen*.

5637. *leuchtet* — (es) leuchtet. *Flor* — Blüte, blühender Zustand. (Fischer).

- mBez auf Gegenständliches, auf Ereignisse u Abläufe iSv Pracht, Glanz. (GWb). *in kurzem Flor* — für kurze Dauer. (Schröer). 多様な意味を持つ言葉。ここでは Blüte, Blütezeit, Lebenskraft, Energie などの意。(Schöne). 英訳では: „as short-lived flame.“ (Atkins).
5638. *vielen* — Pl. 3格. *es* — das Flämmchen. 次行の *es* も同じ. *erkannt* (hat).
5639. *ausgebrannt* — < ausbrennen. *P.P. adv.* 燃え尽きて。この2行の英訳は: „But even before most people know of its existence, / The feeble spark, alas, has been extinguished.“ (Atkins).
- 5640f. = Der (Mann) da droben auf dem Viergespann / Das ist ... *Scharlatan* — *frz.* charlatan, aus *ital.* ciarlatano, von ciarlare „schwätzen“ : Marktchreier, Quacksalber, Windbeutel. (König). 宮廷の召使の女たちの言動は、ただ感覚的に知覚出来るものだけを頼りにして、Plutus を詐欺師のような年の市の香具師と見なす。(Endres).
5642. = Da hintendrauf sitzt Hanswurst gekauzt. *kauzen* — kauern, hocken. (GWb). *gekauzt* — geduckt, zusammengekauert. (Fischer). 民衆語の *kauzen* をゲーテは好んで „sich ducken“ の代りに用いている。(Petsch). 旅行用馬車の荷物のように、Plutus の童車のうしろの方に宝の箱がある。その上に Mephisto が身を屈めて坐っている。(Trend.). 生きている骸骨のように痩せた Mephisto が、強欲、或いはけちの仮面をつけて、宝の箱を守っている。これは富を表す Faust や、気前のよい詩に対する絵のようなコントラストをなしている。(Thomas). *Hanswurst* — ドイツの芝居や人形劇の庶民的な滑稽な人物。道化。(GWb).
5643. = Doch (ist er) abgezehrt von Hunger und Durst.
5644. *ihn* — Hanswurst. 次行の *ihn* も同じ。ここは Hanswurst, wie man ihn ... ついぞ見たことのないような姿よ。(佐藤)。
5645. 骨と皮ばかりに痩せているので、つねっても感じないでしょう。(Schöne).
5646. *Der Abgemagerte* — V. 5665 で Geiz (けち) と名乗る宮廷道化師の Mephisto. (Schröer). *Vom Leibe mir* — Weg von meinem Leibe. (高橋). od. Gehe weg von meinem Leibe. *ekel* — ekelierend, abscheulich, widerstehend, nicht vor dem 17. jh. im gang. (Grimm). *Weibsgeschlecht* — 軽蔑的な表現。Mephisto の最初の言葉は、恐らく一人の女が Mephisto を軽蔑して、つねってみようと試みたことを意味している。(Arens). 英訳は: „Don't lay your hands on me, disgusting females !“ (Atkins). „You awful women, don't you dare come near me !“ (Greenberg).
5647. *jm. recht kommen.* 人の気に入る。

5648. *Wie* — Als. 次行の *Da* で受ける。 *Herd* — metonym für Hauswesen. (GWb). *versehen* — besorgen. (Grimm).
5649. *Avaritia* — *f. lat.* Geiz の意。儉約のセンスが主婦から消えて以来、Geiz は夫に移行した。それと同時に Geiz は男性名詞になった。(Reclam). *knauserige Sparsamkeit*, Geiz, *Habgier*. (Schöne). 英訳では : „My name was still Dame Avarice.“ (Atkins).
5650. *Da* — その当時は。 *es steht gut um et.* ある物の状態がよい。 *es* は非人称。
5651. *Nur* — 願望・要求の意。 *herein* — *herein steht mit verben der bewegung, des sehens, lockens, und befehlens, die in dringlicher rede unterdrückt werden, besonders im falle des gebots.* (Grimm). 従ってここは = *Nur viel(es) (komme) herein und nichts (gehe) hinaus!* *herein* — ゲーテは *hinein* の代りに用いた。(Grimm). 英訳では : „Acquire much, let nothing be discarded!“ (Atkins).
5652. *eifern* — *sich anstrengen, abmühen.* (GWb). für *et. eifern.* *Schrein* — 宝石, 装身具, お金, 衣服などを保管する鍵のかかる箱。(Grimm). 英訳では : „I strove to keep our chests and cupboards filled.“ (Atkins). „How I guarded chest and closet.“ (Greenberg).
5653. *Das sollte wohl gar ein Laster sein* — Die Sparsamkeit des Weibes sollte wohl gar — nach der Anschauung der Neueren — ein Laster sein ! (Schröer). *sollte* — 接続法 II。どうしても信じられないという気持を表す。まさかそれが悪徳になるとは ! *ein Laster* — 1. Timotheusbrief 6, 10 : „Denn Geiz ist eine Wurzel alles Übels.“ (Schöne).
- 5654f. *als* — V. 5658 の *Da* で受ける。 *allerneusten* — 最高級を *aller* によってさらに強める。 vgl. 834. *gewohnt (ist) zu sparen.*
- 5656f. *böser Zahler* — 借金を払わない人。(Gaier). *hat* — 主語は 2 行上の *das Weib.* *Taler* — *Geld* の意。 *Reim* のために *Taler* を用いた。
5658. *viel(es)* — 主語。英訳ではここは : „Their husbands have a lot to suffer.“ (Atkins).
5659. *Wo er nur hinsieht* — *Wohin er nur sieht.* どこを見ても (見渡す限り)。 *er* — 前行の *Mann.* *nur* — 意味を強める。
- 5660f. *Sie* — V. 5665 の *Das Weib.* *es* — 後半の *was.* 手に入れた金。 *kann sie was erspulen* — *wenn sie was erspulen kann.* *was* — *etwas.* *erspulen* — 家庭で糸紡ぎの手仕事をして, 副収入を得ること。(Buchwald). 糸を紡いで稼ぐこと。ここではより一般的に夫に気付かれないように, お金を手に入れること, まんまとせしめること。(König). *an et.⁴ wenden.* 英訳では : „Her spinning— money she'll soon spend/On clothes and on her fancy friend.“ (Luke).

5662. = Auch speist sie besser (als Mann), trinkt noch mehr (als speist). (高橋)。od.
Auch speist sie immer besser, trinkt noch immer mehr.
5663. *Mit der Sponsierer leidigem Heer* — Mit dem leidigen Heer der Spon-
sierer. *Heer* — große Anzahl, Menge. (GWb). *Sponsierer* — Galane, Lieb-
haber (wie V. 5661 Buhlen). vgl. V. 5187, 5539. (Fischer).
5664. *Das steigert mir des Goldes Reiz* — Die Verschwendungssucht der Frau
macht den Mann goldgierig. (König). *des Goldes Reiz* — den Reiz des Goldes.
5665. *Bin* — (Ich) bin. *männlichen Geschlechts* — 述語的 2 格。Er ist eines
guten Standes. 彼は良家の出である。(関口)。女の金遣いの荒さが夫をけちにす
る。従って Mephisto の説によれば、今や Geiz は男性名詞である。女がまだ節約し
ていたときには、女性名詞だったけれども。(Schröer). vgl. Anm. zu V. 5649.
(Reclam). 英訳では: „So now I am Sir Greed, and masculine.“ (Atkins). Geiz
— nicht auf die Gier nach Besitz, sondern auf das übertriebene Festhalten an
ihm zu deuten.(Fischer).